テキスト抜け、SSのトリミングや貼付位置の甘さがありますがご容赦願います。
テキストはレガシーキャラにてコピペしておりますが、抜けた部分はサブキャラのテキストを挿入している部分もあります。

FF14　備忘ログ(PATCH2.0)　メインクエスト編

ウルダハ編（レガシーキャラ）

砂の都ウルダハへ　～　海都で待つ仕事

©2010－2014 SQUARE ENIX CO.,LTD.All Rights Reserved. FINAL FANTASY XIV

オープニング

……て……
……いて……感……て……
聞いて……感じて……考えて……

エオルゼアを震撼させた「カルテノーの戦い」から5年

賢者ルイゾワの秘策により　時を超え
再びエオルゼアの地に降り立った冒険者

その者は今　懐かしの地に足を踏み入れる
第七霊災によって様変わりした　その地に

アルデナード小大陸の南端　荒野ザナラーン

砂の都と称される「ウルダハ」は
遠方からの隊商たちが行き交う　交易都市国家である

かつて鉱山都市として栄えたこの都市は
「黄金都市」と言われるほどの富であふれている

厚い城壁に囲まれた宝石の如き豪奢な都市に
今ひとりの冒険者が帰ってきた

今はまだ　己の運命を知らぬ者……

神々に愛されし地　エオルゼアの歴史に名を残す者……

この冒険者の長き旅は
砂の都ウルダハから再び始まる

砂の都ウルダハへ

ワイモンド ： よう！　そこの冒険者！　そう、アンタだ。やっぱり冒険者か。
ハハハ、どうしたキョロキョロして。着いたばかりの冒険者って感じだな。
俺は情報屋のワイモンドってんだ。よかったら、ウルダハを案内してやろうか？
なに、案内料はツケといてやるさ。大物になったら、俺を情報屋として使ってくれりゃいい。さぁ、こっちへ来な。
おいおい、大丈夫か？　足元がフラついてるぞ？　危なっかしい雛チョコボッ子だぜ。
まったく……しょうがねェな。お前が冒険者として、これからしなきゃいけねェことを教えてやるよ。
まずはラウンジ「クイックサンド」に行くんだ。
あそこにゃ、冒険者ギルドの窓口があってね。冒険者として身を立てるってんなら、まずは登録だ。
「クイックサンド」は、すぐ目の前の階段を上った扉の奥だ。女将の「モモディ」に声をかけな。がんばれよ、新米。
冒険者として身を立てて、ガッポリ儲かったら、情報屋の俺にも、おこぼれを頂戴させてくれよな！

モモディ ： あら、いらっしゃい。
あなたは……。以前、どこかで会ったことがあるかしら……？　……だめだわ、霞がかかったように……。
……第七霊災の後遺症ってやつでね。わたしも悩まされているのよ。あら失礼、自己紹介がまだだったわね。
わたしはモモディ。ここ「クイックサンド」の女将よ。
ここには「冒険者ギルド」の窓口があってね。ウルダハを訪れる冒険者の面倒を見ることが多いの。
そうね、ちょっとした顔役とでも思ってくれるといいわ。
ここウルダハは、蛮族である「アマルジャ族」との争いが絶えなくてね。
おまけに最近では、北方の大国「ガレマール帝国」も何やら動いているって話でしょ。
平和そうに見えるこの街だけど皆、何らかの不安の種を持ったまま日々を過ごしているの。……霊災の後遺症も、そのひとつ。
5年前の「第七霊災」で、エオルゼアは甚大な被害を受けたわ。
月の衛星「ダラガブ」から現れた黒い龍が、壊滅的な被害をもたらしたのよ。
ザナラーンでもかなりの被害が出たんだけど、なぜか皆、そのあたりの記憶が曖昧でね。未だに原因も、よく解っていないの。
あの時、いったい何が起こったのか。証言も一致しないし、記憶も不確か……。
……これが皆が感じる「第七霊災の後遺症」ってわけ。
そんな曖昧な記憶の中で、1つだけ確かなことがあるの。
エオルゼアの危機を救うために戦ってくれた「英雄たち」がいたことよ。
彼らが成し遂げたことを、わたしたちは忘れていない。
だけど「後遺症」の影響か、その名を呼ぼうとすると、日に焼けた書物の如く、
読み上げられず……その顔を思いだそうとしても、強烈な日差しの中にある影のように見えない……。
人々は、この光の中に佇む英雄を、敬意をもって「光の戦士たち」と呼んでいるわ。
わたしたちは、あなたたち冒険者の力を必要としているの。
ウルダハに暮らす皆の不安を取り除くため、「光の戦士たち」のようになってくれることを期待してね。
ぜひ、あなたの力を貸してほしいの。その代わりと言ってはなんだけど、わたしたちは、冒険者への協力は惜しまないわよ。

モモディ ： ありがとう！　あなたなら、そう言ってくれると思ってたわ。
冒険者が来れば、皆の不安が取り除かれる。それに、人が動き！　お金が動き！　揉め事が起こる！
結果、ウルダハは大繁盛！　このクイックサンドは大黒字！
だからウルダハは、あなたたちみたいな風来坊も大歓迎よ！
……あらやだ、ずいぶん前置きが長くなっちゃったわ。それじゃ、冒険者の登録を済ませましょうか。
ここに、あなたの名前をサインしてくれる？
あなたにお仕事を頼む時も、あなたのお墓をつくる時も、名前がないと困るもの。
◇◇◇　◆◆◆……。あら、ステキな名前ね。
よし、あなたは今から冒険者ギルドの一員よ。あらためて、よろしく頼むわね。

みすぼらしい男 ： ひ、ひいっ、謝るよ！　金は今度返す！　だから、な、な、今日は見逃してくれ！

取立屋らしき男 ： ひんがしの国のコトワザを知ってるか？　「破壊の神も3度までは慈悲をかける」ってな。
だが残念、これでお前は4回目だ。……連れていけ！

みすぼらしい男 ： ひいぃぃぃぃっ！

モモディ ： あらあら……また揉め事があったみたいね。でも、ここじゃ日常茶飯事なの。
ウルダハでがんばるなら、ああいう風になっちゃだめよ？
あなたも、がんばってね。何かあれば相談に乗るわよ。
……でも、人生相談はお断り。恋愛相談なら考えてあげてもいいわ。ウフフ。
ようこそ、ウルダハへ！　わたしたちは、あなたのような冒険者を歓迎するわ。活躍を期待してるわよ。
さて、この街を案内してあげなきゃ。準備ができたら、声をかけてね。

冒険者への手引き

モモディ ： どう？　準備はできた？　じゃあこれから、あなたの第二の故郷となる、このウルダハの施設について、いろいろと教えてあげるわ。
まず1つめは「エーテライト・プラザ」。この建物を出て、西に少し歩いた先にある施設なの。
そこにある大きなクリスタルが「エーテライト」よ。エーテライトは転送装置の一種なの。
きっとあなたの冒険の基点となる場所になると思うわ。まずは行ってみて、エーテライトに「触れて」みて。
で、2つ目の施設は「剣術士ギルド」あなたって剣術士よね？　でもまだまだ新米でしょう？
だったらギルドに挨拶してきて損はないわ。
ギルドにはあなたと同じ、剣の道を志す仲間や先輩がたくさんいるわ。行けばきっと剣の上達に役立つと思うの。
そして最後は冒険者の装備を整える場所。「サファイアアベニュー国際市場」ね。
ここはウルダハで一番盛況なマーケットよ。
武器や防具とか、冒険の必需品はもちろん、世界中から集められたいろいろな商品が並んでるから、
歩いてるだけできっと楽しいわ。
あ、そうだ。市場に行くときには1つ、注意が必要！
このウルダハはお金がすべて。お金があれば、どんなものだって手に入る。
だから誰もが富を求めて必死になってるの。そのためには、他人を騙すこともなんとも思わない。
街中には、そんな心無い人たちがたくさんいるわ。
あなたのような、おのぼりさんが買い物したら、きっと法外な値段をふっかけられて、騙されちゃうわよ。
この「新人冒険者の紹介状」を、市場の顔役でもある「セセロガ」という人に渡してみて。
きっと親切に便宜をはかってくれるはずよ。
以上がウルダハの主な施設。合計3つ。他にも色々な施設があるけど、それらは自分の足で自由に歩き回って探してみて。
最後にお姉さんから新人君にアドバイス。
さっきも言ったけど、このウルダハはお金がすべて。老若男女問わず、誰もが一攫千金を狙って争っている。
でもそれは言い変えると、「この都市にはたくさんのチャンスが隠れている」ってことよ。
だからあなたも困っている人がいたら、積極的に声をかけてみて。
そして相談に乗ってあげて。思わぬ「チャンス」を掴めるかもよ？
わたしからの話はこんなとこかな？
じゃあ、そろそろいってらっしゃい。わたしはずっとここにいるから、いつでも会いに来てね。

ネネバル ： お、新米の冒険者か。モモディに言われてやってきたな？　「エーテライト」とはもう交感したようだな？
じゃあ早速、使用料を払ってもらおう。お代は……100,000ギルだ。
……なんてな。はははは、冗談さ、冗談。からかってすまなかった。
お詫びに「エーテライト」について説明してやろう。
「エーテライト」は、クリスタルに秘められたエーテルの力を用いて、人や物を遠くに転送するための装置だ。
「デジョン」や「テレポ」という魔法を聞いたことがあるかい？　それらの転送魔法もエーテライトの賜物さ。
「エーテライト」は世界各地に存在している。
だからそれらに触れることで、君は冒険者として世界をまたにかけて大活躍できるってわけさ！
これから冒険で訪れる先に、「エーテライト」があったら必ず触れておくといい。
君の冒険の旅を快適にしてくれること間違いなしだ。
さて、説明は以上さ。エーテライトや転送魔法について、詳しく知りたかったら、いつでも声をかけてくれ。

剣術士ギルド受付

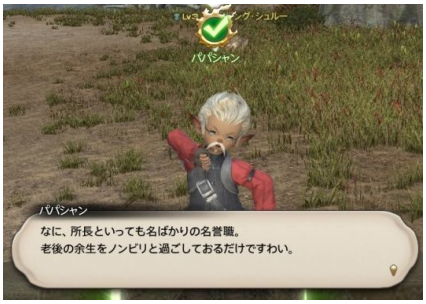
ルルツ ： は～い、こんにちはぁ。こちら「剣術士ギルド」になりまぁ～す。
おや、初めての方ですねぇ？　ようこそ～！
そんなあなたに「剣術士ギルド」について、ちょちょいっと説明しちゃいますよぉ～！
「剣術士ギルド」は、剣の使い手が集まり、チョー厳しいシュギョーをする場所なんですぅ。
というのも、このウルダハではコロセウムで戦う「剣闘」が国民的娯楽として大、大、大人気なんですぅ！
だから最強の座に君臨する剣闘士たちは目がグルグルするほどの大金と歌姫も顔負けの人気を、独り占めできるんですよぅ。
う～ん、剣一本で立身出世！　これこそ真のロマン！　ウルダハに生まれた者なら一度は憧れる存在、剣闘士っ。
そして、そんな名誉ある歴代剣闘士チャンピオンたちを数多く排出してきたのが、
私たち「剣術士ギルド」なんですっ！　すごいでしょ？
チャンピオンになるためには、腕の上達はもちろん、新しい戦法や必殺技の開発もチョー大事ですぅ。
ここではそんな研究も積極的に行われているんですよぉ。
あなたもこのギルドを訪れたのならぁ、目指せ、ウルダハンドリーム！
……そんな感じで、ヤル気マンマンになったら、ぜひぜひ、「剣術士ギルド」にご入門、お願いしま～っすぅ！
以上、受付のルルツちゃんでしたぁ～。

セセロガ ： なんだお前？　新米冒険者か。いかにも。オレがこの市場を仕切っているセセロガだ。
何？　この市場について色々教えてほしいだと？　はッ！　何でこのワシがそんなことせにゃいかんのだ！？
人にモノを頼むなら、せめて100ギルくらいそっと袖の下にいれんかい！　ワシは忙しいのだ、シッシッ！
おお？　こ、これは……モモディちゃんの紹介状！　むむむ。他ならぬモモディちゃんからのお願いじゃ、邪険にはできんなぁ……。
わかったわかった、教えてやろう。二度は言わないから聞き逃すなよ！
ここは「サファイアアベニュー国際市場」。ウルダハで一番盛況なマーケットだ。
ご存知の通り、ここウルダハはアルデナード小大陸の陸路の起点であり、
バイルブランド島を始めとする蒼茫洋の島々と大陸を繋ぐ、海の玄関口でもある。
そのため、実に様々な人々が行き交い、古くより交易の中心地として栄えてきた。
人が集まるとこには、金が集まるってことだな。
だからウルダハでは数多くの組合や商会が設立され、商取引だけでなく、貸金業や投資業も発達しておる。
まさに生き馬の目を抜く不夜城ってやつだな。
お陰でちょっとやそっとじゃ手に入らない珍品も、このウルダハでは手に入れることができる。
……もっとも、金があれば、の話だがね。
もしお前が、冒険に必要なものをそろえるなら、この市場を活用するがいい。きっと目当てのものがみつかるはずだ。
ここから北側の市場にあるのが、「素材」「薬」「料理」「アクセサリ」「防具」の店……
南側が「武器」「よろず屋」「道具、用具」の店……
それぞれ目的に合わせて店を選ぶがいい。まぁ、気をつけていれば、ボッタくられたりはしまいよ。
説明はこんなモンでいいか？　……まったく、タダで人にモノを教えるとは。このセセロガも焼きが回ったわい。
いいか！？　くれぐれもモモディちゃんによろしく伝えてくれよ！

モモディ ： あら、◆◆◆さん。どうやら、一通り施設を回ってきたようね。おつかれさま！
ウルダハを拠点にする冒険者にとって、あなたが回ってきた施設は不可欠なもの。
何度も通うことになるだろうから、これらの施設を中心に、ウルダハの街を覚えていくといいわよ。
素直な冒険者は大好きよ。ウルダハのために、ガンガン稼いで、ガンガン浪費してちょうだいね！

ウルダハ操車庫へ

モモディ　：　どう？　ウルダハの街には慣れた？いろいろな場所を回って、土地勘は掴めたかしら。
慣れたのなら、そろそろ街の外に出てみてはどう？
都市内とは比べ物にならないくらいザナラーンは広く、様々な冒険があなたを待ってるわ。
「ウルダハ操車庫」に「パパシャン」さんっていう古い知り合いがいるの。
彼ならきっと、初心者に手ごろな仕事をくれると思うわ。「ウルダハ操車庫」は、中央ザナラーンにあるわ。
このクイックサンドから、すぐ目の前にある「ナル大門」を通って郊外に出て、東に行けばすぐよ。
外には危険がいっぱいよ。それほど強くはないけど、襲ってくる魔物もいるわ。装備を整えていってらっしゃい。



パパシャン　：　モモディ殿の紹介で、私から仕事をもらいに来たですと？
いかにも、私がパパシャン。この「ウルダハ操車庫」の所長をしておる者です。
なに、所長といっても名ばかりの名誉職。老後の余生をノンビリと過ごしておるだけですわい。
……5年前の「第七霊災」を境に、このあたりも、ずいぶん様変わりしましてな。
霊災によって被害を被った故郷を復興するため、民という民が力の限り、力を合わせて働いた。
その結果が、今あるウルダハの立派な威容なのです。
この立派な線路も、そのひとつ。民の必死の努力が結実したものですな。
……しかし「第七霊災」の傷は癒えきってはおりませぬ。
手の行き届かぬ場所、手を入れねばならぬ場所は、まだまだ、たくさんあるのです。
◇◇◇ ◆◆◆殿。冒険者たるあなたには、その手助けをして頂きたい。
とはいえ……はて、急ぎの仕事などありましたかの。

美味しい差し入れ

パパシャン　：　……と、そうでした！
実は今日、この操車庫の周辺で衛兵さんがたが、警備をしていらっしゃるのです。
暑い中、実にご苦労なことですわい。
そこでですな、この「上等なプレッツェル」を、衛兵さんがたへ差し入れてきて頂きたいのです。
私は今から、大事な用がありましてな。申し訳ないのですが、ご助力くだされ。

銀胄団の真面目な衛兵　：　むむむ、怪しい者めッ！　何者だッ！
す、すみません、つい気を張ってしまいました！　差し入れですかぁ、助かります！
パパシャン殿にお伝えください。
見渡す限り、怪しい者は特におりません！　中央ザナラーンは平和そのものであります。
……そういえばさっき、小柄な女の子が一人、南の方に走っていきましたが……。

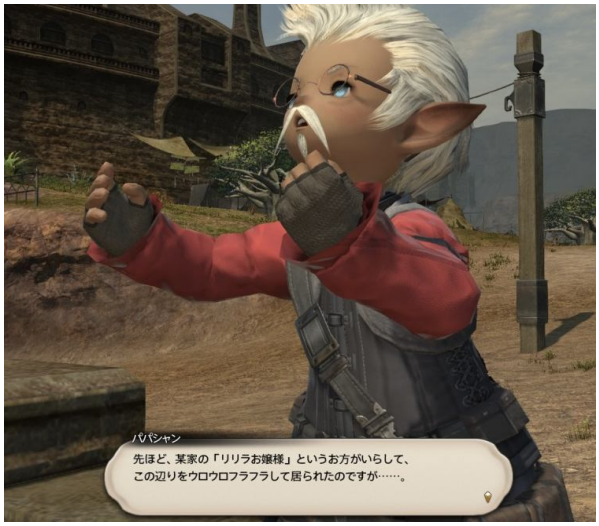
銀胄団の律儀な衛兵　：　くぅ……あ、暑い……
でもこれも任務……頑張ります！
おお！　差し入れとはかたじけない！
我らは人呼んで、銀胄団(ぎんちゅうだん)！　王家を守る近衛兵なのです！

銀冑団のお堅い衛兵 ： 右よーし！　左よーし！　異常なーし！
ややや！　なんと！
パパシャン殿からの差し入れですって？
感激ですッ、ありがとうございますッ！
腹が減っては戦はできませんからね！
……まぁ、別に戦はしないですけど。

パパシャン ： ◆◆◆殿っ！
え、衛兵さんがたの様子はいかがでしたか！？
なにか、目撃情報などありませなんだかっ！？
……あ、いや、申し訳ありませぬ。つい取り乱してしまいまして……
と、ともかく、ご苦労様でございました。些少ながら、こちらはお礼です。取っておいてくだされ。

ササガン大王樹の下で

パパシャン ： ◆◆◆殿！　お主を信用できる冒険者とみこんで、折り入ってお願いがあるのです！
急を要することなのです！　どうか、話だけでも聞いてもらえんだろうか！
助かりますぞ！　早速、話を聞いていただきたい！
先ほど、某家の「リリラお嬢様」というお方がいらして、この辺りをウロウロフラフラして居られたのですが……。
実は、私がチョッッッッと目を離した隙に、行方が解らなくなってしまわれましてな！
リリラお嬢様に万が一があれば、私のような者の首は、100回飛んでも許されぬこと！
いやいや、万が一もあってはならんことなのです！
すでに、何人かの冒険者に捜索依頼を出しはしたものの、落ち着いて待っておれんのですわい……。
◆◆◆殿！　お主も、リリラお嬢様の捜索に、ご助力を願えんだろうか！
ありがたい、恩にきりますぞ！　何としてでも、リリラお嬢様を見つけ出してくだされ！
ここから東南の「ササガン大王樹」の方面は、まだ誰も向かわせておりませぬ。
◆◆◆殿！その辺りを中心に捜索をお願いいたしますぞ！



ローブ姿の少女 ： ……ササガン様……
ササガン様、申し訳ありません……。
わたくしの不徳で、大切なものを奪われてしまいました……。
誰じゃ！

手練れらしき優男 ： ふぅ……。
探しましたよ、リリラ様。
お一人で出歩いては危ないと、何度言ったら、ご分別なさるんです？

リリラ ： 放っておけ！
リリラは一人になりたいのじゃ！あっちへ行け！

手練れらしき優男 ： そうはいきません。このところ物騒ですからね。
それに、ここのエーテルは乱れています。嫌な感じがするのです。
さぁ、帰りましょう。皆、心配していますよ。
君は所長が言っていた冒険者だな？ご苦労だったな。
おや……君は……。以前、俺と会ったことが？
なんだか、懐かしい感じがしたものだから。人違いのようだ、失礼したね。
一緒に所長のところへ帰るとしよう。リリラ様を無事保護したと伝えにね。
やれやれ……。敵の多いお嬢様だよ、まったく。リリラ様、下がっていてください。
君、手を貸してくれ。やるしかないみたいだぞ！
リリラ様は下がってくれたな。さて、さっさと片付けるぞ！

手練れらしき優男 ： チッ……まだ来るのか！
手練れらしき優男 ： 俺はデカ物を狙う！　そこの小さいやつを任せたぜ！
手練れらしき優男 ： 君、俺がケアルで回復するから離れないように！
手練れらしき優男 ： やれやれ、また増援とはね……。話し合いで解決したくなってきたよ。
手練れらしき優男 ： だいぶ弱ってきたな。もう少しだ、たたみかけるぜ！

（超える力）
聞いて……感じて……考えて……

……光のクリスタルを手にし者よ

星の声を聞く者よ
我が名はハイデリン……

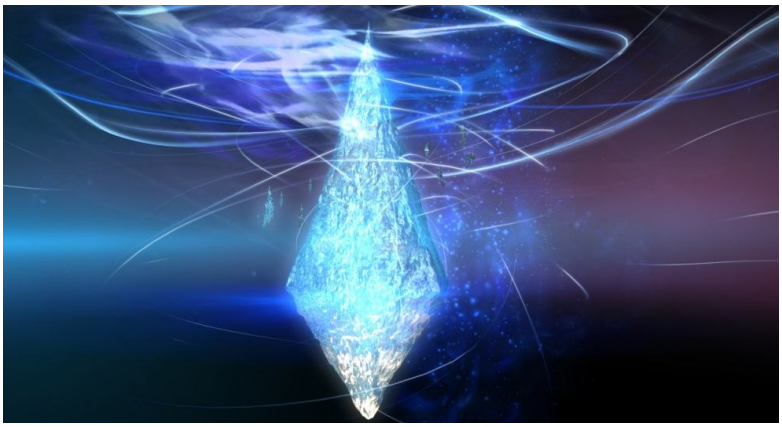
星の秩序を保っていた理（ことわり）は乱れ
世界は今　闇に満ちようとしています

闇は　すべてを蝕み　すべての生命を奪う存在……

闇に屈せぬ　光の意志を持つ者よ
どうか　星を滅びより救うために　あなたの力を……

光のクリスタルは闇を払う力……
世界を巡り　光のクリスタルを手に入れるのです

あなたの戦いが　魔法が　行動が
光のクリスタルを生みだすでしょう



それが　光の意志を持つ　あなたの力……

光の意志を持つ者よ……
どうかあなたの力を……
（超える力終了）

手練れらしき優男 ： 気が付いたかい？

リリラ ： ……今の魔物は何だったのじゃ？

手練れらしき優男 ： 異界ヴォイドに棲むという、妖異の一種です。

リリラ ： あれが話に聞く妖異……。

手練れらしき優男 ： しかし、こんな化け物を使役するとは、ただの賊ではないようだな。
ところで、君、大丈夫かい？
エーテルにでも酔ったんだろうか。戦闘のあと、急に倒れたから驚いたよ。
なんだって……？　大きなクリスタル……？　いったい何の話を……。
なるほどね……これは、思わぬ収穫だ。いやすまない、こちらの話だよ。
私……っと、俺は一足先に帰って、この件を、しかるべきところに報告しなければならない。
冒険者さん。リリラ様のことをお願いします。

リリラ ： なっ！　わら……わたくしは子供ではない！
じいのところくらいなら、自分で戻れるわ！

手練れらしき優男 ： やれやれ……。
本当にヤンチャなお嬢様だ。
では、俺たちも帰るとしようか。
君とは、また近いうちに会いそうな気がするよ。それまでしばしのお別れだ。

パパシャン ： リリラ様、よくぞご無事で！　じいは……じいは……本当に心配いたしましたぞ！
お嬢様に何かあったら、もうどうしようかと……。じいの寿命を、どれほど縮めたら気がすむのですか！
剣を置き、引退してから15年……。
しかしながら、お嬢様をお守りする務めだけは、1日たりとも忘れてはおらぬのですぞ！

リリラ ： ……じいも知っておろう。私は……責任をとらねばならんのじゃ……。

パパシャン ： そのことは、お忘れくだされ。じいたちが全て元通りにしてご覧にいれます。
お嬢様は、それを待っていてくだされば よいのです。
このようなことで、お嬢様に万が一があれば、それこそ大事ではすまないのですからな。

リリラ ： わかった、もうせぬ。
じいと約束しよう。……それでよいじゃろう？

パパシャン ： おお、◆◆◆殿！　よく戻ってくださった！
捜索のために雇った冒険者に、お主の向かった辺りで、魔物との戦闘があったと聞きましてな。心配しておったところでしたわい。
それにしても、なんとお礼を申し上げたらよいことか！　リリラ様を守ってくださって、感謝いたしますぞ！
……珍妙な機械を持った男性を見たですと？　その者なら「サンクレッド」という賢者でしょうな。
以前からウルダハに滞在しておって、なんでも、エーテルにまつわる調査をしておるとか。
格好こそ怪しいものの、不審なものではありませぬ。
◆◆◆殿。お主のような腕の立つ冒険者が訪れたことを嬉しく思いますぞ。
これからも、どうかウルダハ市民の力になってくだされ。よろしく頼みましたぞ！

御礼品は予約品

シシドア ： 酒房「コッファー＆コフィン」って店の店長ロジャーに少し恩があってね、「ナナモパンプキン」を贈りたいのさ。
カボチャは、王立ナナモ菜園で予約した高級品だ。そりゃもう高かったが……まぁ、今回は大奮発だな。
早速「ナナモパンプキン」を引き取りに行きたいのだが、ナナワ銀山からの荷が遅れているみたいでな。
俺はここからしばらく動けそうにないんだ。
俺の代わりに「王立ナナモ菜園」の「ガガリ」にこの「パンプキンの引替伝票」を渡して、「ナナモパンプキン」を引き取ってくれないか。
後はそれをコッファー＆コフィンに持っていくだけだ。には手間をかけて悪いが、ちょっくら頼んだよ！

ガガリ ： 今日は野菜の引き取りが一件あったはずだけど、まだシシドアが来ないみたいなのよねぇ……。
あら、この「パンプキンの引替伝票」はシシドアの依頼ね。「ナナモパンプキン」ならバッチリ用意してあるわ。
はい、じゃあこの予約していた「ナナモパンプキン」を、酒房「コッファー&コフィン」の「ロジャー」に届けてね。
この辺りは、なかなか新鮮な野菜が取れないからね、うちの野菜は予約がビッシリ埋まってるブランド物よ！
きっとロジャーも喜んでくれるんじゃないかしら。コッファー＆コフィンは北西の橋を渡った先にあるわ。
地元の働き者が集まる、おいしい酒房よ。それじゃあ、お願いするわね。

ロジャー ： ご注文は？　お代なら気にしなさんな。エールでも蒸留酒でも、ウルダハ都市内よりは安く出すぜ？
……っと、シシドアからの届け物だって？
はっはっは、この間アイツが店で酔いつぶれて、アイツの家まで運んでやった時の礼ってとこかね。
王立ナナモ菜園の「ナナモパンプキン」とは美味そうだ。
こいつはうちの料理人にバッチリ渡しておくぜ、きっと腕によりをかけてくれるはずさ！
うちに来る大食いの肉食労働者共にふるまって、野菜を食わせてやるいい機会だぜ！　ありがとな！

注文の多いお客様

ロジャー ： おう、お前さんちょっと手空きなら、注文を取るのを手伝っちゃもらえねぇか？
ご覧のとおり、腹ペコのお客さんはいるんだが、給仕がちょいと足りなくてねぇ……。
外に注文に来い、なんていう面倒な常連もいるからな。こっちは冒険者の手でも借りたいのさ。
仕事は簡単さ、注文を待ってる客たちに話しかけて、「コッファー＆コフィンの注文票」を貰えばいい。
ほんじゃ、任せたよ！

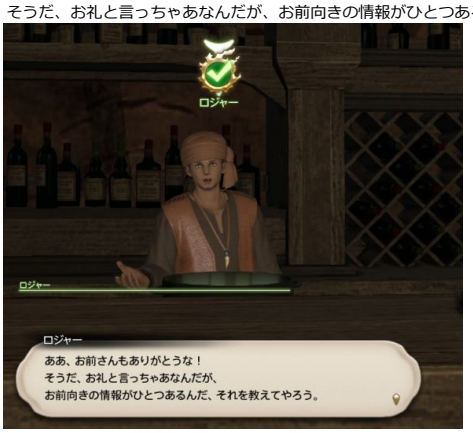
ラウンデルフ ： あー疲れた……喉カラッカラだよ！　今日はそうだなあ、エールとドードーのグリルにしよう。
あーあ、今月の小遣いも、またここで使い込んじゃった。カミさんの飯よりここのほうが美味いんだもん……。

ソリッド・トランク ： ブランデー、ストレート、ノーチェイサーでな。
……今日は仕事が上手くいかない、やけ酒さ。

リカルド ： もう、腹が減ってかなわん！
エールとドードーのグリルと激旨モールローフを頼む！　早く！！
今日は売上が上々でね、昼飯を食う暇もなかったんだ。ああもう、飯のことを考えるだけでよだれが……！

アダルフンス ： お前が注文を取りに来たのか？
注文は、アイスシャードでキンキンに冷やしたエールだ。それだけだ、単品な
ククク……業務中であることはさておき、広大な景色を眺めながら飲む酒は最高なんだぜ……？

ロジャー ： どうだい？　うまいこと注文票を集められたか？
ふむふむ、エールにブランデーに、ドードーのグリル……。
やれやれ、常連顔でわざわざ呼びつけるくせに、アダルフンスの野郎はまたエール単品か。
偉そうに呼びつける割に、注文はみみっちいんだよな。
ああ、お前さんもありがとうな！
そうだ、お礼と言っちゃあなんだが、お前向きの情報がひとつあるんだ、それを教えてやろう。



ブラックブラッシュ停留所の厄介者

ロジャー ： 冒険者にお得な仕事の情報なんだがな、どうやら最近「ブラックブラッシュ停留所」では兵の手が足りないらしい。
さらに、停留所にいる鉄灯団のウォーリンって奴が、アントリング・ワーカーの被害に気をもんでいるって情報もある。
お前さんがバシッと実力者であることを証明すれば、割のいい仕事を紹介してもらえるかもしれんぞ？
アントリング・ワーカーを討伐し、その証拠として「アントリングの大顎」を5個ばかり、
「ウォーリン」に突きつけてみたらどうだい？

ウォーリン ： アントリング・ワーカーを退治しているだ？　はっ！　口だけでならなんとでも言えるぜ！
げげっ！　まさか本当だとは思わなかったぜ！！　ほほーう、実力のある奴なら歓迎するぜ。
この一帯は中央ザナラーンの中心部、魔物も多くてよ、戦う力がある者は、いくらいても十分ということはねぇ。
てめーが仕事を探しているんなら、俺にまた話しかけてくれ。
悪いようにはしねぇから、魔物をバッキバキに倒そうぜ？

戦場の備え

ウォーリン ： 俺はアマジナ鉱山社配下の「鉄灯団」っつー自警組織のもんだ。ここでは主に、列車の邪魔をする魔物を討伐してるぜ。
てめーにも早速仕事を回したいところだが……その前によ、ひとつだけ確かめておきたいことがある。
「装備」についてだ。いくらてめーの繰り出した一撃が重かろうがよ、ペラッペラの装備で身を固めてたら死んじまう。
俺が直接、てめーの装備を確かめてやる。そんじゃ、バッキバキに装備を揃えたら声かけてくれよな。

ウォーリン ： で、装備は整ったのか？
……フン、問題ねーようだな。ま、それだけの装備を身に着けているなら安心だぜ。
世の中に絶対はねぇ、戦場では万が一ってこともある。
ま、腕の立つ冒険者っつーのは結構貴重だからな、つまんねーことで命を落としてほしくねーんだよ。
いいか、どんな魔物が相手でも油断をすんじゃねーぞ。……それがわからず、命を落とす仲間が少なくねぇんだよ。

迷惑な鉱石マニア

ウォーリン ： 準備も万端だ、早速仕事を頼もうじゃねーか！
ここは鉱石を積んだ列車が行き来してんだがな、ま、道中安全……ってわけにいかねーわけさ。
列車が「ヘルズブレード洞穴」を通過する時に、「シルバーコブラン」たちが荷台に飛び込んできて、大切な鉱石を喰っちまうんだ……。
そこでだ、トンネルに隠れたシルバーコブランを誘い出す、シルバーコブラン好みの「大ぶりの銀鉱」を用意したぜ！
これをトンネル内の「岩盤の裂け目」に仕掛け、誘い出されたシルバーコブラン共を殲滅してきてくれ！

ウォーリン ： ほほーう、シルバーコブランを殲滅できたようじゃねーか。これでしばらくは、安心して列車を運行できそうだ！
鉱山と都市の物流をつなぐここの列車は、アマジナ鉱山社が運営する重要な存在だからな、
一帯の経済を担っていると言っても過言じゃねーぜ。
まぁ、その重要な列車様を守るために、俺らの人手が足りなくなっているわけだけどな……。

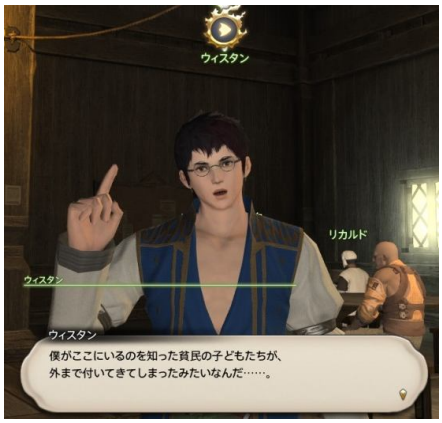
迷惑な鉱石置き

ウォーリン ： おめーの腕っ節、なかなかのもんだな！そんじゃもう一件、仕事を頼むぜ。
線路上に何者かが「傷だらけの銀鉱石」を置きやがるんだ。定期的に置きに来るもんで、鉱石の回収もイタチごっこ状態。
列車が鉱石を轢いちまったら、脱線事故に繋がっちまう。元凶を絶つために、置き石犯を見つけて倒しちまってほしい。
「傷だらけの銀鉱石」が置かれた付近を4箇所調べてほしい。敵を見つけたら、そいつをぶっ飛ばしてやってくれ！

ウォーリン ： 犯人はスプリガン・チャンブラーだったのか！　……なるほど、そういうことねぇ。
スプリガン・チャンブラーってのは、石を食べて歯を研ぐ習性がある奴らなんだ。
線路上の石は、その食べこぼしかもしれないな。
前回お前に倒してもらったコブランもそうだが、コブランとスプリガンは鉱石好きの二大巨頭でね、
鉱山周りの警備をやっていたら絶対関わるもんさ。
ま、これで当分列車の安全は確保されただろうよ。おめーのおかげだよ、本当に助かったぜ、ありがとな！

成功の表と裏

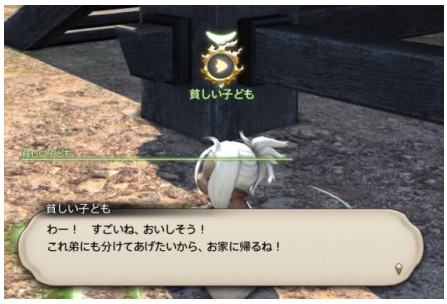
ヅヅメダ ： やあ、あんたが噂の冒険者だね。あんたに面白い最新情報があるぜ。
なんと……ここから南西にあるシラディハ遺跡で、新しい銀の鉱脈が出たって噂が出てるんだ。
しかもこの噂、アマジナ鉱山社が知る前に、貧民上がりの青年実業家、ウィスタンが目をつけた。
採掘権を買い取れば、かなり大儲けできるだろう……。
だが、ウィスタンって奴はなかなか面白いやつでな、その利益で「商取引法」を改正するつもりらしいぜ。
ウルダハの法律は、王宮のご意見役であるナル・ザル教団の司教たちが策定していてね……。
だから、教団に莫大な献金をすれば口が出せるんだ。
そんで今の「商取引法」は、ロロリト会長の献金によって、彼の「東アルデナード商会」に有利な内容になっている。
ウィスタンは、この不公平な法律を変えようってワケさ。
おっと、少し話がそれちまったな……。とにかくウィスタンは、噂の銀脈に調査団を派遣するらしい。
そんで、その調査団を護衛してくれる実力者を、酒房「コッファー＆コフィン」で募集してるって話だ。
あんた、ウォーリンが認めた奴なんだろう？
酒房「コッファー＆コフィン」に向かって、護衛役を買って出てみちゃどうだい？



ウィスタン ： 護衛に立候補しにきてくれたのかい？　すまない……もう募集は締め切ってしまったんだ。
銅刃団の人たちが護衛に名乗り出てくれてね、ついさっき調査団と共に遺跡に向かったんだよ。
しかし、君に手ぶらで帰させてしまうのは悪い、仕事をひとつ受けてくれないかい？
僕がここにいるのを知った貧民の子どもたちが、外まで付いてきてしまったみたいなんだ……。
でも、この辺は魔物もいるし危険だ……。
彼らにこの「可愛いジンジャークッキー」を配って、家に帰るよう説得してきてほしいんだ、頼んだよ。

貧しい子ども ： ウィスタンはね、いつも遊んでくれるんだ！　だから今日もね、きっと遊んでくれるんだから！
わー！　すごいね、おいしそう！これ弟にも分けてあげたいから、お家に帰るね！

貧しい子ども ： ……俺たちのこと理解してくれるのはウィスタンだけだ。だから、いいからウィスタンに会わせてよ。
……おいしそう。……ウィスタンに、ありがとう、ごめんねって伝えて。僕たち、気をつけてお家に帰るから。



貧しい子ども ： 帰れって言われても嫌だよ！　お腹が空いてるし、もう動けないよーだ。
わわっ！　クッキーだ！！　しっかたないなー今日のところは帰ってあげる！

貧しい子ども ： ウィスタンお兄ちゃんと遊びたいの。一緒にいればね、いじめられないの。
ウィスタンお兄ちゃんが困ってるの……？　私おりこうだから、お母さんの所に帰るね。

ウィスタン ： 御苦労さま、ありがとう。子どもたちも帰ってくれて良かったよ。
……僕も昔は、彼らみたいな貧民の子だったんだ。
学びの機会も、就業の機会も奪われ、迫害される身分……彼らの気持ちは、痛いほどよくわかるよ。
だから、彼らが生きやすい世の中を作ることが、僕の商売人としての目標なんだ……。
……僕は今ね、彼らみたいな貧しい人たちと協力して、新しい事業を始めたいと思っているんだ。
銀脈の採掘権が買えれば、採掘と精錬、そして彫金と、たくさんの働き口が生まれる。仕事さえあれば、貧しさから抜け出せる！
「東アルデナード商会」に所属していない僕なら、商会の顔色をうかがう必要もないからね。
安値で製品を売れば、事業は成功するはずさ。
僕は、金持ちの商人だけが得をするような商売ではなく、みんなが幸せになれるような商売がしたいんだ。

銅刃団の衛兵 ： 調査団が、すばらしい鉱脈を見つけました！ウィスタン様も見に行きませんか？

ウィスタン ： 本当か！　すばらしい！　それではさっそく向かうことにしよう！
そうだ、君も商売の歴史が変わる瞬間を見たいなら、シラディハ遺跡に来るといいよ！

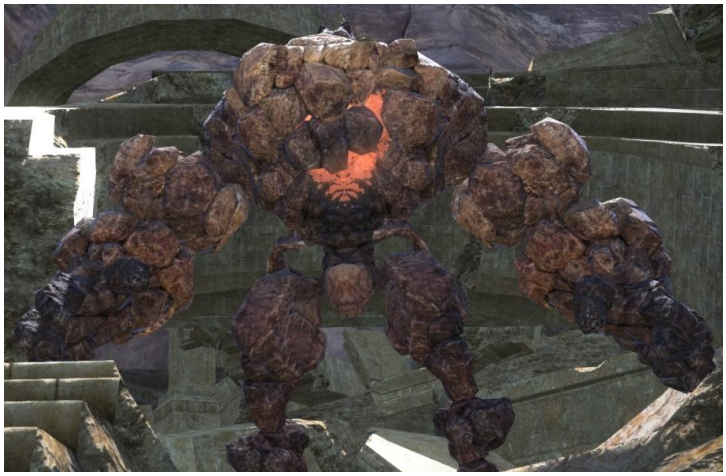
銅刃団の衛兵　：　バカな奴らめ。今更、シラディハ遺跡から銀が出ると思ってんのか？　貧民上がりは、学が無くて困っちゃうねぇ！
砂蠍衆(さかつしゅう)への挨拶もなく、ウルダハで商売しようなんざ、許されねえんだよ！

ウィスタン　：　砂蠍衆……だと？くっ……ロロリトの手先か……。

銅刃団の衛兵　：　観念するんだな！
何者だ！？　……そうか、貴様も、この男の仲間だな？　へっ、こうなりゃ、まとめて葬ってやるぜ。

？？？？　：　**示せ、創世の理の嘆き声よ。物世に有りし石棺に偽魂を宿さん……。為せ、真理の偶像よ！**

銅刃団の衛兵　：　な、なんだ！？　何の声だ！？　こ、こんな化け物のことは聞いてねぇぞ！
ロロリト様……まさか俺たちまで始末する気なのか！？　くそっ！

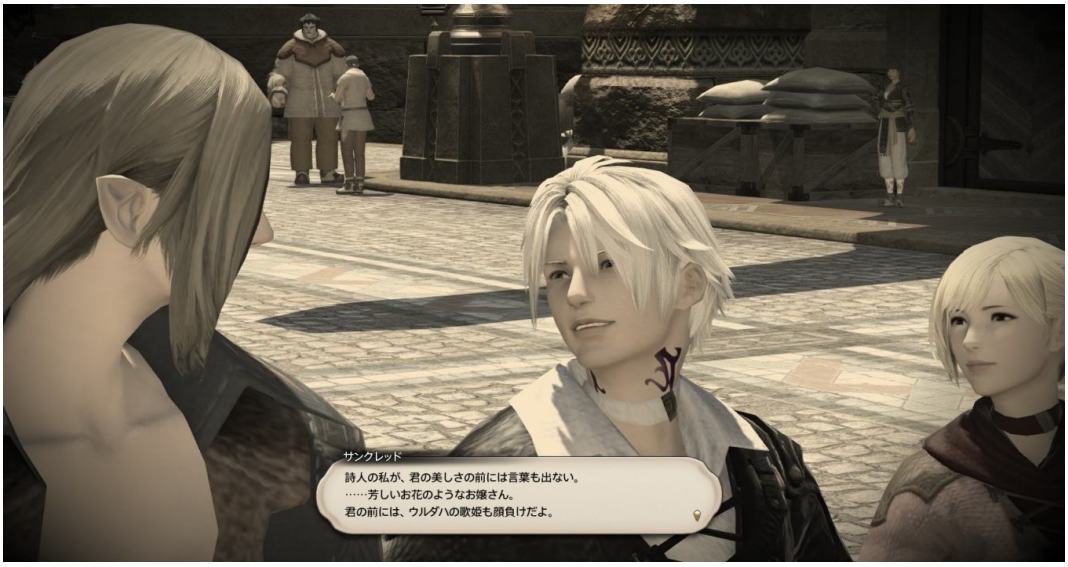


？？？？　：　ほう、なかなかやるな……。しかし、これはどうかな？
まさか……！？　石人形が押されているというのか！？

？？？？　：　**なんだヤツの力は……。**
それに、あの剣術士。ただの冒険者ではないようだな。
石人形ごときでは通じぬというのか……。

手練れらしき優男 ： チッ、取り逃がしたか……。
やあ、また会ったね。なかなかの腕前じゃないか。

（超える力）
サンクレッド ： 詩人の私が、君の美しさの前には言葉も出ない。……芳しいお花のようなお嬢さん。
君の前には、ウルダハの歌姫も顔負けだよ。



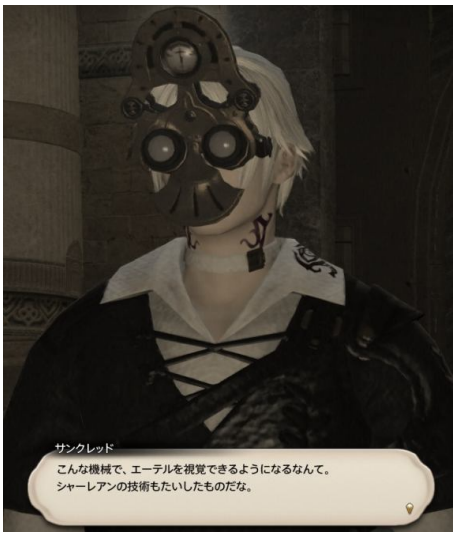
サンクレッド ： 花は、ただそこにあるだけで美しく気高く、愛する心を呼び起こす。
君たちは、ザナラーンの荒野に咲いた花さ。

日焼けした商人 ： ……またキャラバンが、アマルジャ族に襲われたらしい。

忙しそうな商人 ： 交易路にも影響が出てるそうじゃないか。いくらなんでも、ここ最近多すぎるぜ。

サンクレッド ： 確かに最近、奴ら目立つ動きをしている……。アマルジャ族め、まさか「蛮神」を呼ぶつもりか！？
蛮神なんて存在、信じたくはないが、注意するに越したことはないな。

快活な女性 ： お兄さん、どうかしたの？



積極的な女性 ： はやく行きましょう！クイックサンドでお食事しましょうよ！

サンクレッド ： ……何でもないさ。すまないね、さぁ行こうか！　それで、ウルダハの、どの辺りに住んでるの？

サンクレッド ： また穀物が値上がりしているのか……。
商人たちの言い分では、各地で、原因不明の凶作が続いているというが……。
月の衛星「ダラガブ」に異変があってから、確実に大地に影響がでている。
大地を流れるエーテルの力が弱まり、土が痩せはじめているんだ……。
だから、本来は生まれないはずの存在、蛮神が生まれてしまった……。
ゆっくりしては、いられないな……。滅亡から逃れる希望は必ずあるはずだ。
それを信じて活動するのがシャーレアン生まれの、私たちの努めなのだから……。
こんな機械で、エーテルを視覚できるようになるなんて。シャーレアンの技術もたいしたものだな。
さてと……。いつまでも、チャラチャラしてはいられないな。「暁」のみんなは、私が守らなくては。
おっと、なかなか癖が抜けないな。俺が守るんだ！　……こうかな？
エーテルの流れが乱れてる……。この波形からすると、そう時間は経っていないか。
こっちは「ササガン大王樹」の方向……。何が起きているんだ？
（超える力終わり）

手練れらしき優男 ： こっぴどくやられたもんだ。立てるか？
俺だ。すまない、逃げられてしまったよ。……局長が？　了解だ。
禍々しいエーテルの気配を辿ってきてみれば、また君と出会うなんて。偶然……それとも、運命かな？
近頃のウルダハは、何かとキナ臭いんだ。
王家に弓引く者たちに、何者かが、異形の力をあたえているようでね。
ウルダハの実質的な支配者「砂蠍衆」。その一人、東アルデナード商会会長、ロロリト……。
彼が暗躍していることは間違いないだろう。

ウィスタン ： ありがとう、助かったよ……。君がいなければ、どうなっていたことか。くそっ、ヤツらめ……。
……君に頼みたいことがあるんだ。あとで、酒房「コッファー＆コフィン」に来てくれないか。
迷惑をかけた上に申し訳ないが、このとおりだ……頼むよ……。

サンクレッド ： 俺は、彼らを連れて戻る。いろいろ話も聞きたいしね。
自己紹介がまだだったね。私……っと、俺はサンクレッド。
この辺りのエーテルの流れを調査している博物学者だ。よろしくな！
君は、もしかして……。いや……なんでもない。また会おう！

ウィスタン ： ……やあ。さっきは危ないところをありがとう。君は、僕と護衛たちの命の恩人だよ。
まさか銅刃団が裏切るだなんて思っていなくてね。……まったく、僕が浅はかだったよ。
銅刃団に活動資金を提供しているのは、財界の重鎮・ロロリトだ。
おそらく、ロロリトが銅刃団に指示を出したんだろう。自分の商いの邪魔になる僕を消すようにね。
ロロリトは本気で……本気で僕を消すつもりだったんだろう。しかも、口封じのために銅刃団ごと……。
……もう、この地で僕が商売をするのは無理だろう。今後は身を隠し、新たな生き方を探すよ……。
僕に関わったことで、君もロロリトに目をつけられたかもしれない。このままじゃあ、君の身も危険だ。
そうだな……ウルダハのモモディなら、こちらの悪いようにはしないはずだ。銅刃団と砂蠍衆の関係についても詳しい。
……僕からの最後の依頼だ。君の活躍は秘密裏に使いを立てて、モモディに伝えておく。
だから君は、急いでウルダハに帰って彼女と会うんだ。
それじゃあ、さよなら。どうか無事にウルダハに戻ってくれ……。

モモディ ： 活躍は聞いたわよ、大変だったみたいね。あなたが元気に帰ってきてくれて嬉しいわ。
それにしても、ウィスタンはとんでもない人に目をつけられちゃったみたいね……。
東アルデナード商会の会長であるロロリトは、政治の実権を握る権力者集団、砂蠍衆にも入る超大物よ。
邪魔な人間は、徹底的に排除しようとするタイプの人。今回の一件の黒幕も、まちがいなくロロリトね……。
銅刃団はしょせん、砂蠍衆たちが金で雇った傭兵……。
そしてロロリトは、口封じに彼らを消すことなんて、何とも思わないでしょうね。
……この国はね、明るくて楽しい国よ、本当に。商売に対する挑戦心も大きい人が多いわ。
だからこそ、身の振り方を覚えないと、闇に葬り去られる……
正しいことが、正しく評価されない部分もあるの……。
でもね、わたしはあなたの行いを評価するわ。ウィスタンを助けてくれて、ありがとう。
今後も正しい行いを成す冒険者でいてね！
ロロリトには気をつけなきゃいけない。
……もっとも、あなたは巻き込まれただけなんだから、変に目立たなければ、狙われることもないでしょう。
……そうだ、がんばってくれたご褒美に、ここクイックサンドに併設されている「宿屋」の使用を許可するわ！
冒険者は身体が資本でしょう？　受付にいる彼、「オトパ・ポットパ」に声をかければ、疲れた時にいつでも休めるわよ。
もうひとつ、あなたのさらなる活躍に期待して……新しい仕事の窓口、「ギルドリーヴ」を紹介するわね。
「ギルドリーヴ」っていうのはね、冒険者ギルドに寄せられた依頼を冒険者に紹介し、解決してもらうための仕組みなの。
ギルドリーヴの窓口は、彼「ユースタス」。あなたなら、厄介な依頼もこなしてくれそうだし、さっそく彼から話を聞いてみたら？

ホライズンへ

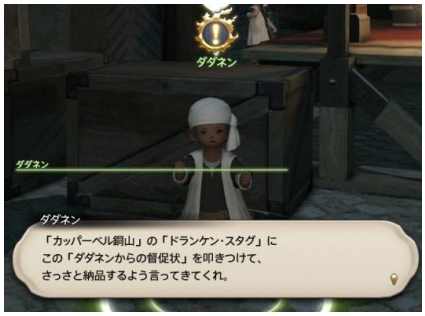
モモディ ： ◆◆◆さん、元気かしら？　わたしに話しかけたってことは、きっと新たな冒険を求めているってことよね？
ふふふ、そうこなくっちゃ。ちょうどあなたにピッタリな仕事があるの。
依頼人は、ダダネンさんっていう方よ。主にウルダハの貴族や富豪たちに、高価な装飾品を卸している宝石商なの。
彼は今「ホライズン」という集落にいて、どうやら冒険者を探しているらしいの。行って、彼の力になってあげて。
ホライズンは、西ザナラーンにあるわ。「スコーピオン交易所」の北、橋を渡った街道の先よ。
……もしかして、ダダネンさんなら、王家の王冠の話も知っているかしら……。
……あら、なんでもないわ、こっちの話よ。
あ、そうそう、もし財布に余裕があるなら、ホライズンまでの旅に「チョコボポーター」を利用してみるっていうのはどう？
クイックサンドのすぐ前にチョコボ留があるから、そこにいるチョコボ屋「ミミグン」さんに話を聞いてみて。
じゃあ、新たな冒険の旅に、いってらっしゃい！

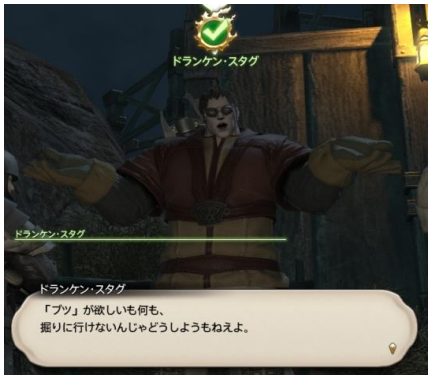
ダダネン ： お前が冒険者の◆◆◆だな。モモディから話は聞いてるぜ。よく来てくれたな、待ってたぜ！
この「ホライズン」は、西の港町ベスパーベイから物資が集まる交易の要所。商人や役人たちで、いつも大賑わいさ！
お陰でいつも忙しくてな。チョコボの脚だって借りたいくらいだ。さっそく手伝ってもらおうか！
冒険者の仕事もわんさかあるぜ。お前も上手くやってガッポリ稼ぎな！準備ができたら声をかけてくれ。

宝石商の憂鬱

ダダネン ： ◇◇◇！　わざわざモモディに頼んで、お前をここに呼んだのは他でもない。大至急「カッパーベル銅山」まで行ってくれないか？
俺は原石の買いつけにきた宝石商なんだが、送られてくるはずの「ブツ」について、銅山から全然連絡がないんだ。
高い手付金を払ったのに……このままじゃ大損だ。せっかくここまで来た、お前の苦労も無駄足になるぞ。
「カッパーベル銅山」の「ドランケン・スタグ」にこの「ダダネンからの督促状」を叩きつけて、さっさと納品するよう言ってきてくれ。

ドランケン・スタグ ： ああ？　ドランケン・スタグは俺だ。冒険者が何の用だ？
督促状……ああ、ダダネンさんか！
実は坑道で恐ろしい魔物が出たとかでお上から銅山に業務停止命令が出ちまったんだ。
「ブツ」が欲しいも何も、掘りに行けないんじゃどうしようもねえよ。仕事にならねえから、俺たちだって商売あがったりだぜ！





ナナシャマラカイトを取り戻せ！

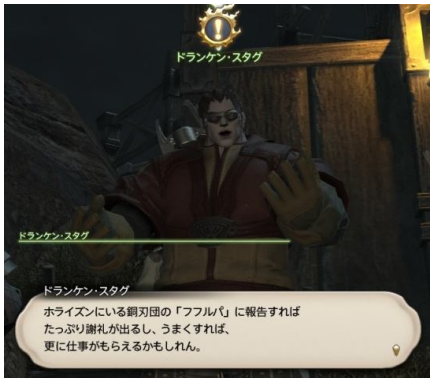
ドランケン・スタグ ： ダダネンの言っていた「ブツ」ってのは、「ナナシャマラカイト」っていう希少な原石だ。
実は、銅山が閉鎖する直前に、なんとか出荷分は外に運び出すことができたんだがな。
貴重な原石を好んで食う新種のコブランのせいで、中に立ち入ることもできやしねェ。
あんた代わりに銅山に行って、取ってきてくれないか？

ドランケン・スタグ ： どうだ？　「ナナシャマラカイト原石」見つけたか？
おお、そうそうコレコレ！
こいつは銅山から少ししか採れない希少性と、故ナナシャ王妃の瞳に似た色合いから、高値がつくのさ。
やれやれ、これでダダネンさんにドヤされなくて済むぜ。
それにしても……すこし量が足りなくねェか？　やっぱりコブランが食べちまったのかなぁ？

五月蠅いヤツら

ドランケン・スタグ ： せっかくここまできたんだ、ひとついい話を紹介してやるよ。
銅刃団が、魔物退治に賞金を出してたぜ。
カッパーベル銅山とホライズンを結ぶ街道に棲む「サンミッチ・スウォーム」倒してきてほしいって話だ。
ホライズンにいる銅刃団の「フフルパ」に報告すればたっぷり謝礼が出るし、うまくすれば、更に仕事がもらえるかもしれん。
「サンミッチ・スウォーム」はそれほど害はない魔物だが、羽虫にたかられたチョコボが暴れだして、
たまに大事故になることがあるんでな。頼んだぜ！

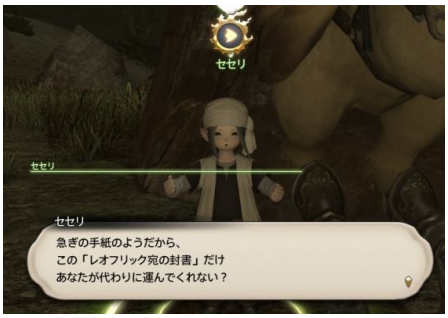
フフルパ ： これはこれは冒険者殿！　な、なんとっ！サンミッチ・スウォームを退治してくれたでありますか！
助かるであります！　感動であります！
市民を守るのが銅刃団の仕事でありますが、人手が足りないので、困っていたであります！
これからも、我々銅刃団と手と手を取り合い、ホライズンの……いや、ザナラーンの……
いやいや、エオルゼアの平和を守るでありますっ！



貧民街の連隊長

フフルパ ： あなたを信頼できる冒険者と見込んでお願いがあります！
自分が「ロストホープ流民街」に出した手紙の行方を確認してほしいのであります。
現在、流民街の警備に就いている「レオフリック元連隊長」殿にお手紙を出したのですが、
いつまでたってもお返事が来ないのでありますっ！
こんなに返事が来ないのはおかしいのであります。きっと、手紙を運んでいる途中で何かあったのであります！
手紙の配達人「セセリ」殿は、ブラックブラッシュ停留所経由でロストホープ流民街に行ったはずであります。
東西にザナラーンを横断する「アラグ街道」に沿って東に行けば、きっと彼女の足取りがわかるはずでありますっ！

セセリ ： ああ、フフルパの手紙？　それならちょうど今運んでいるところよ。
でも、街道を歩いている途中で、このチョコボが足を傷めてしまってね。休み休み歩かせているせいで、配達が遅れてるの。
急ぎの手紙のようだから、この「レオフリック宛の封書」だけあなたが代わりに運んでくれない？
宛先は……「ロストホープ流民街」みたい、頼んだわね。



レオフリック ： 見ない顔だな、新しく住み着いた流民か？
フフルパからの手紙だと？　あいつ……まだ俺を連隊長だと思ってやがるのか。クソ真面目な性格は、昔から変わらねェな……。
俺はレオフリック、一応、銅刃団の一員だ。ここ「ロストホープ流民街」を警備している。
警備っつっても……ここには守るべきモンなど、何もないがな。
ここは「ロストホープ」の名の通り、希望を失った者が集まる場所……。この俺のようにな……。
手紙、ありがとよ。

その男、サー・ギヴロン

レオフリック ： 冒険者さんよ……。恥を承知で、頼みたいことがあるんだが……。
南にある「キヴロン別宅跡」に行ってそこの親玉である「サー・キヴロン男爵Ⅲ世」と、手下たちを倒してきてくれないか？
男爵なんて名乗ってるが、単なる盗賊さ。
霊災で亡くなった元砂蠍衆、エオランデ・キヴロンの別宅跡を勝手にアジトにしているタチの悪い連中だ。
あいつらが幅をきかせてるおかげで、ただでさえ劣悪な流民街が、もはや無法地帯だ。
しかも最近、何やら怪しげな取引をしているらしい。
くそ……俺がまともに剣を握れれば、盗賊団など、一網打尽にしてやれるんだが……。頼んだぜ……冒険者……。

レオフリック ： おお、戻ってきたか。まさか本当に倒してくるとは思わなかったぜ。
砂蠍衆として名を馳せた富豪の別宅が、盗賊のアジトになっちまうような時代……。盛者必衰、世は無常……ってやつだな。
まるで俺と似たような境遇だな。一度は銅刃団連隊長の地位に上り詰めながら、くだらん正義感のせいで挫折した、この俺とな。
……お前は強いな。
俺の失った希望を叶えられるのは、もしかしたらお前のような奴かもしれん……。

受け継がれる護身刀

レオフリック ： いろいろと街の仕事を引き受けてくれたようだな。俺はこの体なんでな、正直言って助かったよ。
最後にひとつ配達を頼まれてくれないか？
この「年代物のダガー」を「ホライズン」にいる「フフルパ」に渡してほしい。
ん？　特に意味のあるもんじゃないさ。
俺じゃあもうダガーを振るう機会はなさそうだから死ぬ前に他の奴に渡しておいた方がいいかと思ってな。

フフルパ ： 冒険者殿、お久しぶりであります！
先日レオフリック元連隊長殿から手紙の返事がきたでありますっ！
こ、これは……っ！　銅刃団ローズ連隊の連隊長が、代々受け継いできた護身刀ではありませんか！！
じ、じ、じ、自分がこのダガーを持つなど、そんな恐れ多いことできないでありますっ！
い、いやいや、ちょっと待ったであります！
この贈り物は……きっと自分に対する、元連隊長殿のメッセージに違いないでありますっ！
……とにかく、この不肖フフルパ、せめてこのダガーに恥じぬよう、銅刃団の使命を果たすであります！

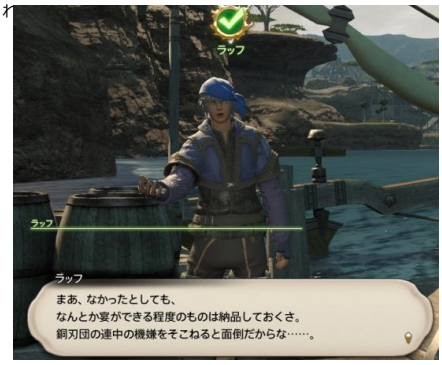
足跡の谷へ

フフルパ ： 冒険者殿、折り入ってお願いがあるであります！　我らが銅刃団に協力してほしいであります！
遺跡の調査のため、西の足跡の谷に呪術士ギルドの調査団様が来ているであります。
砂蠍衆のロロリト様とも親しい、とても偉い方であります。
その警備のため、ホライズンを防衛する銅刃団ローズ連隊から小隊規模の兵があちらに派遣されているであります。
でも、我輩はと～っても心配なのでありますっ！　調査団御一行様が魔物に襲われたら大変であります！
ウルダハの輝かしい未来は、たちまち真っ暗であります！
冒険者殿お願いでありますっ！　「足跡の谷」へ行って「トトルナ」に警備の協力を申し出てほしいであります！

トトルナ ： フフルパの使いだと？
ったく、あのバカ、大事な取引の前に、どこのチョコボの骨とも知れん冒険者を……。
あーあ、あのバカ真面目野郎が……。
テメェがウザくて使えねェバカだから、ホライズンに置いていかれたって、いい加減気付けよ。
フフルパのバカ、ほんと使えねェバカだぜ。銅刃団のクセに、そんなことも分からねェとは。
バカもここまでいくと、笑っちまうバカだぜ。

酒のサカナ求む

ヌヌゾフ ： おいお前、ちょっといいか？クレセントコーヴまで使いを頼みたい。
我らが警備をしているお偉方を接待するため、ホライズンで盛大な酒宴を催す予定だ。
南の「クレセントコーヴ」という漁村に行って、漁師の「ラッフ」に、活きのいい美味い魚を何匹か
ホライズンの酒場に納入するよう伝言してくれ



ラッフ ： けっ……活きのいい魚ねえ。最近海が荒れていて、いい魚なんざ網にかかっとらんよ。
少し待ってれば、沖に出た連中が戻ってくるから何か収穫がなかったかきいてみよう。
まあ、なかったとしても、なんとか宴ができる程度のものは納品しておくさ。
銅刃団の連中の機嫌をそこねると面倒だからな……。

盗賊たちの晩酌メニュー

メリルダ ： あ、あのっ……冒険者さん、食料の調達を願いできますか？
その……今、村に盗賊が来ていて、酒のツマミを出せと言われているんです。
この辺りの魔物から、手に入るものでいいんです。
「バザードのモモ肉」と「シックシェルの脚」、「スカフィテの刺身」をそれぞれ2つ調達してください。

メリルダ ： ありがとうございます！　はあ……これで殴られずにすみます。
この村、ひどいものでしょ？　盗賊が大きな顔で好き勝手し放題、私たちは怯える毎日です。
近くのホライズンやベスパーベイを警備している銅刃団は、私たちのような貧しい者を守ることなど、まるで頭にないのです。
だって、ヤツらこそが……。元凶なのですから……。

正義を銅の刃に宿し

メリルダ ： あなたは信用できる冒険者みたいですね。私の相談にのってくれませんか？
この間、盗賊どもに食事を出しているときにヤバそうな話を聞いてしまったんです。
奴ら、カッパーベル銅山で見つかった貴重な原石を密かに国外へ運び出すつもりみたいです。しかも協力してるのが……

フフルパ ： そ、そ、それは、ほ、ほ、本当でありますか？！
なんてことでありますか！　ウルダハの貴重な資源を密輸するなんて、とんでもないことを聞いてしまったであります！
自分は、お世話になった冒険者殿にお礼をすべく、ここまで追いかけてきただけなのに！　偶然とは恐ろしいであります！
冒険者殿、お礼をするのは少し待ってほしいであります。
自分はこのことを、「足跡の谷」にいるバルドウィン連隊長殿に報告するであります！
銅刃団の誇りにかけて、盗賊を必ず捕らえるであります！！

メリルダ ： い、いけない……冒険者さん！　「足跡の谷」に行った彼を追いかけて！
彼は銅刃団の本性を知らないんです！　このままでは殺されてしまいます！

フフルパ ： ば、バルドウィン連隊長殿！　大変であります！！
盗賊どもが、カッパーベル銅山の貴重な原石を密輸しようとしているであります……
……どうして、連隊長殿が盗賊と一緒……に？

バルドウィン ： ……ったく、お前は余計なことばかりしてくれるぜ。取引中だからに決まってんだろうがよ。

フフルパ ： 取引って……ま、ま、まさか！　密輸の首謀者は連隊長殿なのでありますかっ!?

バルドウィン ： なんだ、お前知らなかったのか？　呪術士の調査団ってのは真っ赤な嘘。こいつらの正体は盗賊団……俺のビジネスパートナーだ。
まったく、ホライズンでおとなしくしてればいいものを。せっかく用意した偽装工作が台無しじゃねえか。

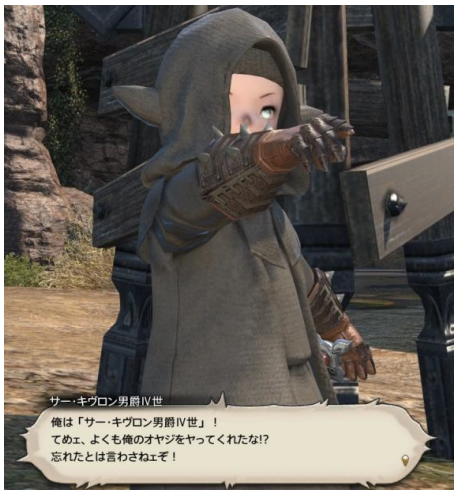
フフルパ ： こ、こんなこと……ロロリト様がお許しにならないであります！

バルドウィン ： やっぱりバカだな、お前。元々、この密輸計画を指示したのは、誰だと思ってる？
誰あろう、砂蠍衆のロロリト様ご本人なんだぜ……。

フフルパ ： ……な……な……。なんですとおおおおおおおおおッ！

バルドウィン ： お前、バカなクソ真面目野郎だと思ってたが、単なるバカなクソだったようだな。
お前の言うような「正義」なんぞ、この銅刃団にはコレっぽっちもねェんだよ！

サー・キヴロン男爵Ⅳ世 ： おい！　そっちで話を聞いてる冒険者！　俺の顔に覚えはねェか？
俺は「サー・キヴロン男爵Ⅳ世」！　てめェ、よくも俺のオヤジをヤってくれたな!?　忘れたとは言わさねェぞ！



バルドウィン ： ちょうどいい、二人まとめて片付けてやるぜ！　銅刃団の名誉のために……死ねッ！

突槍のバルドウィン ： 貴様らを殺して、証拠をもみ消してやるぜ！
正道のフフルパ ： バルドウィン連隊長！　許さないであります！
突槍のバルドウィン ： チッ、てめェら、なかなかやるじゃねェか！
突槍のバルドウィン ： 銅刃団連隊長の実力、見せてやるァァッ！
正道のフフルパ ： 冒険者殿、奴の急所突きに気をつけるであります！あたると、致命傷になるであります！

？？？？ ： そこまでだっ！
レオフリック ： お前の負けだ、バルドウィン。……観念しろ。

バルドウィン ： へっ！　誰かと思えば「元」連隊長さんかよ!　負け犬が何を言ってやがる。
あんたが剣を持てなくなって、流民街に左遷された理由を忘れたか？　今度は体を壊すくらいじゃすまさねえぞ!

レオフリック ： 確かに、お前程度にハメられるなんて俺も大概マヌケだとは思うがな。お前はソレ以上の大マヌケだよ。

バルドウィン ： マヌケって何がだ！

レオフリック ： 盗賊どもの偽装工作がずさんすぎ、クレセントコーヴ村民のほとんどが密輸の話を知ってたぞ。
さすがに事件をもみ消せないっていうんで、ロロリト様から直々に捕縛命令が発行されたそうだ。

バルドウィン ： バ、バカなあああああああああ！　そんな、俺がロロリト様に捨てられるだとぉ？！

レオフリック ： そういうもんだ。ロロリト様にとってみれば、俺もお前もとるに足らない、ただの捨て駒なのさ。
やるようになったじゃないか、フフルパ。

フフルパ ： れ、れ、レオフリック元連隊長殿ッ！　いや、連隊長殿……ッ！　自分は……自分の求めていた「正義」は……。

レオフリック ： ふっ、「正義」か……。それは、これからお前が作ればいい。今日からはお前が銅刃団の未来を担うんだ。
銅刃団はしょせん、傭兵を集めた雇われ自警団。そこに集うのは、金目当ての奴らばかり。中には悪に手を染める輩もいるだろう。
しかし全員が「正義」を失ったわけじゃない。フフルパ、お前のような男もいる。
たとえ銅刃団でも、胸に熱い「正義」があれば、その力は一騎当千の騎士団にも勝る。
フフルパ、お前は、お前の正義を貫け。銅刃団の未来を頼んだぞ……！

フフルパ ： たいちょおおおおおおおおッ。
冒険者殿、ご協力ありがとうございます！　自分はこれからバルドウィンたちを連行するであります。
後でまたホライズンに寄ってほしいであります。ご協力のお礼を用意して待っているであります。

フフルパ ： ああ、冒険者殿！　待っていたであります。
あの後、バルドウィンたちは無事に牢屋に入れられたであります。
盗賊逮捕の功績が認められて、新しい連隊長が来るまで、自分が連隊長代理としてホライズンのローズ連隊を率いることになったであります。
レオフリック連隊長殿に頂いたこのダガーにかけて、今後も誇り高き銅刃団の一員として、自分の「正義」を貫き通すでありますっ！
事件が解決したのは、冒険者殿のご協力のおかげであります。本当にありがとうございますでありますっ！

落日の銀冑団

フフルパ ： 冒険者殿！　是非とも貴公にお仕事をお願いしたいのであります！　自分が隊長代理となって、初めての仕事であります！
実は先ほど、バルドウィンの不正を暴こうと隊長室にある彼の机を調べたのであります。
そしたら、こんな手紙が出てきたのでありますが……。
どうやら未開封のようなのであります。しかも宛先は……「銀冑団のオワイン」……。
そうなのであります！　「銀冑団」といえばウルダハ王家に仕える近衛隊。きっと内容は重要な用件に違いないのであります！
盗賊に密輸していたバルドウィンが持っていた手紙……。しかも宛先は近衛隊……。
もしかしたら、例の王冠の件かもしれないのであります！
冒険者殿！　どうかこの手紙をオワイン殿に渡してほしいであります！
とはいえ、いきなり銀冑団の総長室に押しかけても、門前払いをされるだけだと思うであります。
ここは是非、顔の広いクイックサンドのモモディ女史に相談するとよいであります！
よろしくお願いするであります！　我々ホライズン銅刃団ローズ連隊は、いつでも冒険者殿を歓迎しているでありますッ！

モモディ ： あら、◆◆◆さん。ダダネンさんから連絡があったわ。大活躍だったそうじゃない！
わたしからも、お礼を言わなきゃね！　ありがとう！　ウルダハの両面を見た感想はいかが？
あなたが少しでも、ウルダハのことを好きになってくれたら嬉しいのだけど。
……あら、わたしに頼み事？　何かしら？
……この手紙を「銀冑団」へ届けるのね。
銀冑団は、王家に仕える近衛兵団……。確かに、冒険者のあなたが、いきなり渡しに行くのは無理かもしれないわね。
オワインさんって方に、渡せばいいのね。わかったわ、任せてちょうだい！
待って……オワインですって……？　それって、もしかして……。
◆◆◆さん。……いえ、もう余所余所しいのは止めましょう。あなたはわたしたちの仲間ですもの。
◇◇◇。あなたの腕を見込んで頼みたいことがあるわ。
少し厄介なことになるかもしれない。準備ができたら、声をかけてくれるかしら。

至宝の影で蠢く闇

モモディ ： よかったわ、引き受けてくれるのね。実はね……。
このウルダハは、対外的には王政をとって、ナナモ女王陛下を元首と仰いでいるわ。
でも実際は、「砂蠍衆」と呼ばれる6人の有力者による合議制によって動いている……。彼らは圧倒的な富で、政治の実権を握っているの。
……そんなウルダハで、最近ある事件が起きたの。
公にはなっていないのだけど、王宮から、王家の象徴である王冠が盗まれたらしいのよ。
傀儡の女王だと言われて、ただでさえ肩身の狭い王家が、この事件のために、さらに面目を失ったって聞いたわ。
手紙の宛先のオワインさん……。この事件で、王冠が盗まれる原因になったって噂の人なのよ。
わたしの勘だけど……。この手紙を書いたのって、事件の犯人かもしれないわ。
事件の噂が立った後に、その人に宛て、銀冑団にまで届けに行かせる……。わざと目立つようにしてるのが、どうも引っかかるの。
この手紙、あなたが渡しに行ったほうがいいわ。……きっと冒険者の力が必要になる。わたしの名前を出せば、案内してもらえるはずよ。
もしかしたら、ウルダハの未来に関わることになる。このクイックサンドの未来もね。……頼んだわよ。

銀冑団の近衛騎士 ： ここより先は銀冑団総長室。無用の者は入ることまかりならん。
何？　クイックサンドのモモディ女史からの使いとな？
……わかった。事情があるなら話は別だ。中に案内しよう。

オワイン ： いかにも、私がオワインだ。冒険者が銀冑団に用があるのか？
私に手紙だと？なぜ冒険者が届けに来るのだ。……ともかく、受け取ろう。
こ、これは……。……冒険者よ。お前は、この中身を読んだか？
そうか、ならいい……。お前が心ある冒険者でよかったよ。
冒険者よ。モモディ女史が見込んだお前を信じて、ひとつ仕事を頼みたい。
私は近々、ある取り引きに出向かなければならない。その時の護衛を依頼したいのだ……。
……いや、隠しごとはよそう。すでに噂も立っている。冒険者なら耳にしているだろうからな。
ウルダハ王家の王冠が、式典中に盗まれたという話を知っているか？
その時、王冠を警護していたのは私なのだ……。日々の平穏に慣れ、油断していた自分が恥ずかしい。
お前が届けてくれた手紙……。これは、その王冠を奪った賊からの取り引きの伝言だ。
「アンホーリーエアー」に行き、あるものを引き渡せば、王冠を返すと言ってきている。
……私は、この命に代えても、その取引を成立させなければならない。ナナモ女王陛下のために……。
しかし相手は、ウルダハでも有名な犯罪者集団。それに、自分は実戦はからっきしだ。
冒険者よ。「アンホーリーエアー」への護衛を頼む！

オワイン ： 約束のものは持ってきた。さあ、王冠を返してもらおう！

ガリバルド ： 王冠はこちらに……。ただ、渡すのはそちらが先ですよ。

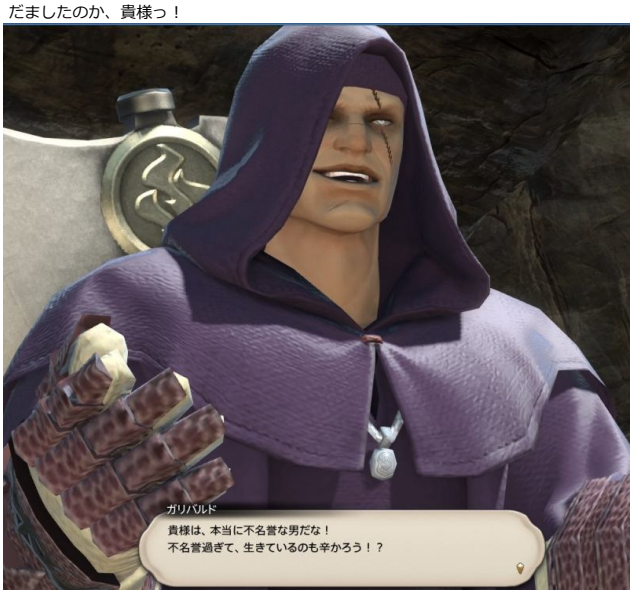
オワイン ： 卑怯なっ！その後に、貴様らが王冠を返す保証がないではないか！

ガリバルド ： おやおや……。卑怯はあなたでしょう、不名誉なオワイン殿。
他言無用と手紙に記したのに、冒険者など引き連れて……。
我々こそ不安ですよ。王冠を渡したとたん、四方から矢の嵐。……なんてことが、あるかもしれないのですから。
この取り引きは無効ですね……。ふいにしたのは……あなただ、オワイン殿。後悔なさるといい。

オワイン ： ま、待て！　約束の霊薬はこれだ、持って行け！

ガリバルド ： 聞いていたとおり、水仙の香りが漂っています。どうやら、本物のようですね……。
ヒヒヒヒッ、ついに手に入れたぞ……。
人をゾンビーと化し、真に不滅の兵と成す、ウルダハの禁忌……。
近衛騎士でなければ、とても入ることができない、王宮の宝物庫の奥に秘蔵されていた、幻の霊薬「ゾンビパウダー」！

オワイン ： なにっ！？　若返りの薬では……ないだと……！？　だましたのか、貴様っ！



ガリバルド ： 何も知らずに、ウルダハを滅ぼしかねない薬を持ち出してくるとは！
貴様は、本当に不名誉な男だな！　不名誉過ぎて、生きているのも辛かろう！？

オワイン ： ……すまない冒険者、お前を巻き込んでしまった。
かくなる上は、我が命を捨ててでも……。

？？？？ ： 軽々に命を捨ててはならぬ！　お主の命は、ナナモ様のものじゃ！
パパシャン ： 話はあとだ、◆◆◆殿。
……ゆくぞ、オワイン！　ウルダハ王家の名の下に、不埒な賊を成敗してくれようぞ！

ガリバルド ： 王家だと……？おかざりが何をぬかすか！　ええい、そこの冒険者もまとめて皆殺しだ！

老騎士 パパシャン ： これでも昔は近衛騎士！　わしの実力を見せてやるわい！
近衛騎士 オワイン ： 実戦経験が少なくたって、戦ってみせる！　冒険者よ、雑魚から片付けるぞ！
老騎士 パパシャン ： 増援じゃと！？　周辺に潜んでおったのか！
外道のガリバルド ： 銀冑団の力、侮ったか……！？　ならば、天使いの秘術にて沈めてくれる！
出よ、深淵に棲みし異形の者よ！　我の言葉に従い、奴らを蹴散らせ！
近衛騎士 オワイン ： 依代も無しに妖異を召喚しただと！？　ええい、なんとしても耐えるんだ！
老騎士 パパシャン ： もう少しじゃ！　冒険者殿、全力で攻めますぞ！

オワイン ： はあっ…はあっ……。パパシャン殿が……なぜ、ここに……？

パパシャン ： 宝物庫で、お主が何やらやっているのを局長が見かけてな……。
王冠のことで、お前に危害が及ばぬよう、付いて行ってやれと頼まれたのだ。

オワイン ： ラウバーン局長が……？

銀胄団の近衛騎士 ： こっちにも、賊の一団がいたぞ！

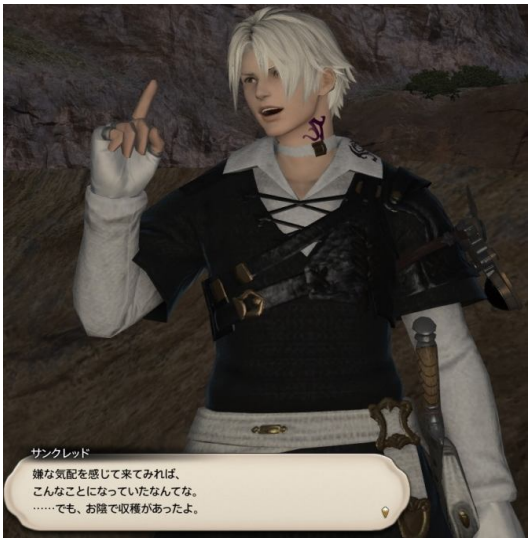
パパシャン ： 逃がすな、追え！　こちらは罠じゃ、おそらく王冠はその一団が持っておる！
……オワイン、我々も行くぞ！

オワイン ： ◆◆◆殿、感謝する。私たちは王冠を奪還してくる！
後ほど、ウルダハでお会いしよう！

仮面の魔道士 ： なるほど、それが力の理由か……。どうりで石人形ごときではかなわぬはずだ。
しかし……！　これはどうかな？
示せ、創世の理の嘆き声よ。空虚に有りし夾雑の御霊を呼び出さん……。出よ、深淵の悍魂よ！
貴様は危険な存在だ。ここで芽を摘んでおくとしよう。

仮面の魔道士 ： 死ぬがいい……穢れた力を持つものよ！
仮面の魔道士 ： ハハハッ！　その猛毒で、もがき苦しむがいい！
仮面の魔道士 ： ここまでの力とは……！？
サンクレッド ： 間に合ったな！　助太刀するぜ！
仮面の魔道士 ： チッ……邪魔が入ったか……構わん、まとめて葬ってやる！
仮面の魔道士 ： 貴様の力は一体！？
サンクレッド ： いける！　よし、一気にたたみかけるぜ！

仮面の魔道士 ： 我ら「天使い」の……秘術が……。……打ち破られるとは……。



サンクレッド ： 天使い（あまつかい）だと？　……そうだったのか。
混乱の創造主「天使い」。いや、伝承に沿って「アシエン」と呼ぶべきか……。実在していたとは。
蛮族の陰にアシエン有り、という情報は、本当だったんだな。
それが、シャーレアンから来た目的か……だって？なぜ、俺が異邦の……。シャーレアンの民だと解ったんだ？
……いや、言わなくていい。君は「あの力」を持っているようだ。
嫌な気配を感じて来てみれば、こんなことになっていたなんてな。……でも、お陰で収穫があったよ。
しかし、お見事だったな！あんな化け物を撃退するとは。
……と、そんな顔をしないでくれ。君を試そうとしたわけじゃないさ。アシエンの登場は「俺たち」にも予想外だったんだ。
なんにせよ、これで王宮の方は落ち着くだろう。君も、銀冑団へ報告に帰るといい。……また会おう！

銀冑団の近衛騎士 ： オワインさんから話は聞いている。さぁ、早く中へ入りたまえ。

パパシャン ： 実は、私は元銀冑団でしてな。今は退役し、ウルダハ操車庫の所長をやっておりますわい。
ナナモ女王陛下が、お忍びで外出されるときには、よく私を訪ねてくださってな。
お目付け役をやらせていただいておるのですよ。
あれから、無事に王冠を奪還し、王家に返還いたした。ナナモ女王陛下も、それはそれはお喜びじゃったよ。
……すべては、お主のおかげじゃ！
先だっては、その我が主を救っていただき、そしてまた、若き騎士の手助けをしていただいた。心より、お礼申し上げる。

女王付きの侍女 ： ナルザルの神子にしてザナラーンの守護者、第十七代ウルダハ王、ナナモ・ウル・ナモ陛下のおな～り～。

ナナモ・ウル・ナモ ： そなたか。わらわのために尽力した冒険者と言うのは。
礼を言いにきた。褒めてつかわすぞ！
この度の褒美の品じゃ。取っておくがよい。
ラウバーンや。

ラウバーン ： ハッ！

ナナモ・ウル・ナモ ： 後日に晩餐会が予定されておったであろう？この者も、その場へ。

ラウバーン ： 仰せのとおりに。
貴様が噂の冒険者か。ウルダハのために活躍しておるそうだな。
貴様は……？　クッ、頭の中がうずく……。
ダメだ。まるで霞がかかったように……。
……しかし、不思議なものだ。お互い、面識はないはずなのに、このような懐かしさを感じるとはな……。
吾輩は、ラウバーン・アルディン。ナナモ女王陛下の元で、ウルダハの政（まつりごと）を担う者だ。
貴様のような有能な冒険者が我が国を訪れたことは僥倖（ぎょうこう）につきる。
女王陛下の仰せだ。ぜひとも晩餐会に出席してほしい。
では、待っておるぞ。
それから……。これからもウルダハに力を貸してくれたまえ。貴様に、クリスタルの導きがあらんことを。

晩餐会に備えて

オワイン ： 冒険者が王宮の晩餐会に招待されるとは……！　凄いではないか！　ウルダハの歴史始まって以来の快挙だぞ！
いいかね？　間違っても女王陛下に対し、粗相があってはならんぞ！　万全の準備をして出席するがいい。
いいか、よく聞け。晩餐会に出席するために必要なものとは……！
……いや、すまん。私は生粋の武人でな。そっち方面には、とんと疎いのだ。
そうだ。クイックサンドのモモディ女史に相談したまえ。きっと、便宜を図ってくれるだろう。

モモディ ： 話は聞いてるわ！　ナナモ女王陛下から、晩餐会に招待されたんでしょう。凄いわ。さすがは◇◇◇ね。
昔から、晩餐会に招待される人たちは、王室から下賜される装飾品を身につけて出席することが習わしなの。
これは、晩餐会という出入りの激しい行事中に女王陛下の命を狙うような不審者が王宮に侵入するのを防ぐためでもあるわ。
装飾品の製作は、彫金師ギルドが行っているの。ギルドマスターの「セレンディピティー」さんを訪ねてみて。
装飾品を受け取ったら、一度、わたしのところへ戻ってくるのよ。晩餐会について、色々と教えてあげるわ。

セレンディピティー ： はい、どうもこんにちは！　彫金師ギルドにようこそ！
王宮の晩餐会に必要な装飾品ですか？　はい、確かに承っております。
華やかな晩餐会の成功を祈って、マスターである私が、心をこめて作った品です！　どうか、楽しんできてくださいね。

モモディ ： おかえりなさい、◇◇◇。ちゃんと受け取ってこれたみたいね。ちょっと、その小箱を見せてくれない？
まぁ、キレイな耳飾り。これが今年の晩餐会に招待された人の証なのね。
証がどんなものになるかは、毎年違うの。去年は首飾り、一昨年は指輪だったわ。でも今年の耳飾りは、とびきり素敵！
これで準備は万端ね！心の準備も整ったら、またわたしに話しかけて。晩餐会に出席するための手順を教えてあげる。

王宮の晩餐会

モモディ ： どう？　晩餐会に出席する準備はできたかしら。
「義士の耳飾り」は、ただ持ってるだけじゃ駄目。ちゃんと身につけるのが、淑女のたしなみよ。
晩餐会の会場は「香煙の間」。ロイヤルプロムナードのバーソロミューさんに話しかければ、香煙の間まで案内してくれるわ。
ふふ、いよいよ社交界デビューかしら？顔が緊張してるわよ。リラックスして、いってらっしゃい！

バーソロミュー ： 今宵は女王陛下主催の宮中晩餐会。ここから先は、冒険者には無縁の場所だ。早々に立ち去るがいい。
……ややッ、その耳飾りはッ！　し、失礼致しました。ご招待客であられましたか！　どうぞ中にお入りくださいッ！

ラウバーン ： ナナモ女王陛下の御前である。
ナナモ様。

ナナモ・ウル・ナモ ： 苦しゅうない。
ウルダハ第十七代国王、ナナモ・ウル・ナモである。
今宵の晩餐には、ウルダハのため、わらわのために、奮闘した冒険者を呼んでおる。
この英雄に、拍手を！
では、皆の者。この晩餐会を楽しむがよいぞ。

ラウバーン ： 恥ずかしい話だが、このウルダハでは、我々王党派と、商人たちを中心とした共和派が対立していてな。
国内は難民だの、蛮族、蛮神と、問題が山積みにも関わらず、内部闘争でゴタゴタしている状態だ。
ナナモ様も健気にされているが、周りがこうでは、心休まれる日もあるまい……。
国の平定に確たる意志で臨むため、より強い王室を作っていかねばならん。
この度の件、ウルダハを代表して礼を言う。感謝しておるぞ。……我々には貴様のような冒険者の力が必要だな。
その輝きは一体……？
これは……。もしや、光のクリスタルか……！？
貴様、以前に、母なるクリスタル……。マザークリスタルに導かれたことが、あるのではないか？
そう、エーテル酔いに似た感覚を体験したことはないか？
なんということだ、光の意思に……。
かつて、このエオルゼアには、蛮神と戦った者たちがいた。
その者たちは、エオルゼア諸国が「グランドカンパニー」を設立すると、その一員となり「ガレマール帝国」とも戦った。
世界を救うため、「エオルゼア同盟軍」の一員として、5年前の「カルテノーの戦い」にも参加していた。
しかし、カルテノーを最後に、その英雄たちは姿を消したのだ……。
残された人々は、英雄が自分たちのために、命を賭して戦ったことを覚えている。……確かに彼らはそこに居たのだ。
しかし、その名を口に出そうとすると、日に焼けた書物を読み上げることができぬよう声に出すことができず……。
その顔を思い出そうとすると、閃光の中にあるように、輪郭が影に包まれてしまう。
この不可思議な現象から、人々は英雄たちのことを「光の戦士たち」と呼ぶようになった。
光の意思に導かれた貴様を見ているとかつての英雄の話を思い出す。
そのクリスタルを大事にすることだ。
マザークリスタル……ハイデリンが、貴様にそれを持たせた意味……それが解るまではな。
貴様は一介の冒険者で終わらず、いずれは、世界をも左右する存在になるかもしれぬ。
なぜなら……。貴様は「超える力」を持っているのだから。

（超える力）

ラウバーン ： 不滅隊をもっと前に出せッ！
勝敗とは、早さと速さが別つのだ！ウルダハの兵（つわもの）たちよ、底力を見せてみよ！

メルウィブ ： チッ、左陣が手薄だ！バラクーダの連中を回せ！
黒渦団本隊と特殊陸戦隊は、その場を死守だ！

カヌ・エ・センナ ： 双蛇党の白狼隊を、黄蛇隊の援護に回しなさい。
エオルゼアと帝国の戦いに、異邦人の冒険者も力を貸してくれているのです！誰ひとり死なせてはなりません！

メルウィブ ： どうされた？カヌ・エ・センナ殿。

カヌ・エ・センナ ： いえ……。

ラウバーン ： 狼狽えるな！この程度では、魔法障壁は破られはせん！

カヌ・エ・センナ ： ：一体、あそこに何が……？

ラウバーン ： ブルホーンから、ブラッドソーン！ブラッドソーン隊？どうした、応答しろ！？
ええい！！

リンクシェルからの声 ： ……ホーン。……ブルホーン……応答……願います！　こちら……マッドドッグ……！

ラウバーン ： マッドドッグ？　ジャキス・ライダーか！？　こちらブルホーン、ラウバーンだ！無事か！？

リンクシェルからの声 ： ……周囲を……炎で囲まれ……脱出不可能！あ　れは……あのでかいやつは、一体何なんです！？　……ぐあっ！

ラウバーン ： どうした、マッドドッグ！？

リンクシェルからの声 ： ……クソったれ！　局長……！　ここはもうダメだ……こらえきれねぇ！！
……ぐあぁぁぁぁぁ！！

ラウバーン ： マッドドッグ、応答しろッ！　ジャキス、クロビソア、返事をしろッ！
くそぉぉぉ！！　なんだというのだ、これはッ！

メルウィブ ： バラクーダの連中にも、連絡は通じないのか？

黒渦団通信兵 ： ダメです！　リンクシェルが使い物にならんのです！

カヌ・エ・センナ ： こちらはどうです？

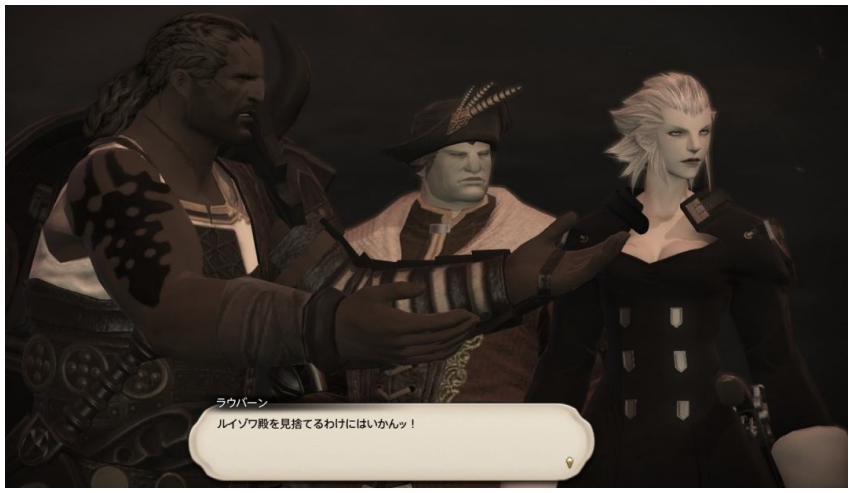
双蛇党通信兵 ： リンクシェル通信に妨害が発生している模様！　おそらく、あの化け物の影響です！

カヌ・エ・センナ ： 交信を続けなさい。出るまで呼び続けるのです。

双蛇党通信兵 ： ハッ！

カヌ・エ・センナ ： メルウィブ提督、ラウバーン局長。限界でしょう……。残った兵を再編して撤収を。

ラウバーン ： ルイゾワ殿を見捨てるわけにはいかんッ！



カヌ・エ・センナ ： 勝敗は早さと速さが別つ、のではないのですか！
もはや、この戦いに勝者も敗者もありません。今は一人でも多くの仲間の命を助けるべきです。
ルイゾワ様には我々が付きましょう。ですが、利益を顧みず戦っている、冒険者の隊だけでも！

メルウィブ ： 黒渦団全軍に通達。現時点をもって、すべての命令を無効とする。全隊、各個の判断で撤退せよ！
いいか、しんがりには本隊を付けろ。冒険者たち特殊陸戦隊を、優先して逃がせ！

ラウバーン ： 不滅隊にも撤退指示をだせ！　……何ッ？リンクシェルが使えないだぁ？
バカやろう！！　足で回って伝えるんだよッ！　行けッ！

カヌ・エ・センナ ： そう、これはもう戦いじゃない……。
衛星「ダラガブ」よりいでし、黒き蛮神による虐殺だわ……。
暗く……悍ましい気配……。この状況でも強く感じるなんて。
撤収しつつ、ルイゾワ様の援護に回ります。各員、用意を！

？？？？　：　**蛮神「バハムート」か……。再び、この目で見ることができようとはな。**
久方ぶりの外界だというのに、よく動く……。
ほうっておけ。我々の気配を悟られようと、どうせ奴らには何もできん。
これは始まりだ。この星が「真の姿」を取り戻す、その日へのな。
フハハハハハハ！

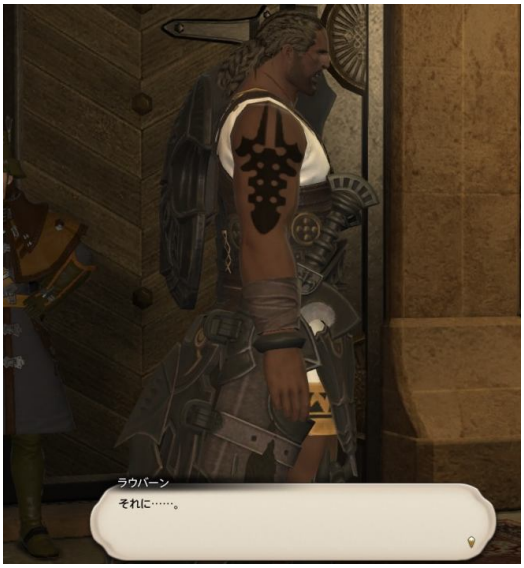
（超える力終了）

モモディ　：　あら、◇◇◇。気が付いた？
何があったか覚えていないの？　あなたは、晩餐会の最中に倒れたの。慌てて、わたしが宿まで運んだのよ？
ナナモ女王が主催した晩餐会で気絶するなんて、冒険者の礼儀には驚かされるわ。
いろいろ大変だったみたいだから、疲れていたのかもしれないけどね。
うん、もう大丈夫のようね。わたしも店に戻るわ。
……そうそう。ラウバーン局長が、あなたに伝えたいことがあるそうよ。
今は「不滅隊」の作戦本部にいらっしゃるはず。局長も、あなたのことを心配していたわ。挨拶にいってらっしゃいな。

ラウバーン　：　貴様か、待っていたぞ。具合はもういいようだな。
実は……。冒険者の貴様に、頼みがある。この仕事を託せるのは、貴様しかいないのだ……。

海都と森都と

ラウバーン ： それでは、くわしいことを話そう。楽にして聞いてくれ。
これは吾輩がしたためた、同盟国への親書だ。
第七霊災、そして「カルテノーの戦い」で、我々は多くの民、仲間を失った。
あれから5年。大地や人々の傷は、未だ癒えきってはいない。
我々のために命を賭して戦った、英雄「光の戦士たち」も、何処へと消えたまま……。
……だが、我々は前に進まなくてはならない。
エオルゼア諸国は、この5年を節目として、近く「カルテノー戦没者追悼式典」の開催を予定しているのだ。
この親書には、その式典にまつわる取り決めが書かれている。
吾輩の代理として、ウルダハの同盟国の盟主へ、この親書を届けてもらえないだろうか。
5年前の戦いに従軍した冒険者たちのように、貴様もまた、ウルダハに尽くしてくれた。だからこそ、この任を任せたいのだ。
ありがたい。感謝する。
同盟国である「リムサ・ロミンサ」、そして「グリダニア」は、ウルダハから遠く離れた地にある。
移動への「足」には、これを使うと良いだろう。
ウルダハ公認の「飛空艇搭乗許可証」だ。遠慮無く使うといい。
ウェルヘッドリフトから、同盟国間を行き来する「循環飛空便」に乗れる。詳しいことは、モモディに聞くとよいだろう。
この許可証は、本来そう簡単に渡せるものではない。帝国の目を警戒し、飛空艇の便数も減っているからな。
しかし、貴様のウルダハでの活躍は認められるべき行い。
貴様の噂を聞いた「ある組織」から、ぜひにと推薦もあったのでな。
それに……。
貴様の持つ「可能性」に、吾輩も期待してみたいと思ったのだ。
ナナモ女王陛下の名代として、我がウルダハを代表し、冒険者へ伝える。
世界を渡り歩き、世界を見てくるといい。
勝敗は早さと速さが別つ。その判断にも、見聞は広いほうが良い。冒険者としての力を磨いてくるのだ。
マザークリスタルに導かれし「超える力」を持つ、貴様にしかできないことが、きっとあるはずだからな。



モモディ ： それは本当なの！？
ラウバーン局長の親書を、同盟国へ届けることを任されただなんて。
あなたの活躍が、ラウバーン局長に……。ウルダハに認められた証よ。
本当に良かった。わたしも自分のことのように嬉しいわ！
あなたが、ウルダハを訪れてくれたことを誇りに思うわ。
飛空艇搭乗許可証を手にしたということはあなたは、一介の冒険者でありながら、エオルゼア全土を旅する権利を得たということ。
エオルゼアは広い。
同盟国である「海の都リムサ・ロミンサ」、そして「森の都グリダニア」。ウルダハ以外にも、多くの人々が住んでいるわ。
それに、まだまだ未開の地も数多いの。
冒険者のあなたにとって、すばらしい体験が待っているはずよ。
でも、それだけじゃない……。
ウルダハに限らず、どこの国も問題を抱えているわ。国家の内訌や、蛮族、蛮神のこと。……嫌な場面に遭遇することもあるでしょうね。
それでも、わたしは……。あなたなら何かをやり遂げると思っているわよ。
第七霊災から5年。人々は、ようやく前を向いて歩みはじめた。
あなた自身の目で、しっかりと見てきなさい。この新しい世界を！

搭乗窓口

エリエノラ ： こちらはハイウィンド飛空社リムサ・ロミンサ行き循環飛空便の搭乗受付窓口となっております。
……これは◇◇◇ ◆◆◆様！　ラウバーン局長より承っております。ご苦労さまです！　さっそく、ご搭乗の手続きをされますか？

飛空社職員 ： ハイウィンド飛空社、リムサ・ロミンサ行き循環飛空便。定刻とおり、まもなく離陸いたします。

ナナモ・ウル・ナモ ： 今にして思えば、ササガン大王樹で会った時から、不思議な感じのする冒険者であった。あの者の行く末が楽しみじゃな、ラウバーン。

モモディ ： いってらっしゃい。
いつの日か、あなたの名自体が、英雄の意味を成すと信じているわ。
クリスタルの導きがあらんことを……。

同日　午前2:32－－

東ラノシア
ガレマール帝国拠点　カストルム・オクシデンス

あの屈辱は　15年前か……

最大最強の飛空戦艦「アグリウス」率いる
大艦隊による電撃的侵攻作戦

この一手で　モードゥナの銀泪湖を抑えることで
エオルゼア併合を確かなものとするはずだった

だが　常勝無敗の我が艦隊の前に現れたのは
天を覆い尽くさんばかりのドラゴンの群れ……

そこで現出せし　幻龍「ミドガルズオルム」

相打つ形で仕留めたものの　アグリウスは墜ち
我らは軍を退かざるを得なかった

？？？？　：　エオルゼア……。偽りの神が跳梁跋扈する銷魂の地……。
二度に渡り、帝国の攻勢を跳ねのけし、忌まわしき地……。
かくしてエオルゼア侵攻は停滞し、奴のような俗物の台頭を許すこととなった……。
そして、「メテオ計劃（けいかく）」ですら、「第七霊災」なる災厄を引き起こしただけに終わり、支配構造は何ひとつ変わっておらん。
不浄、不定、不測……。この世界は、あまりに狂っている。
救わねばならぬ……。我々が、愚かな民を未来へと導く。正しき支配と導きこそが、この地に平定をもたらすのだ。

XIV軍団の幹部たち　：　ガイウス閣下の御心のままに。

ミッドランダーの技術兵　：　なぁ……。ガイウス軍団長は、なんでエオルゼアに？

ハイランダーの技術兵　：　先日の閲兵式でも言っていただろ。大きな作戦があるんだってよ。

ミッドランダーの技術兵　：　でもよぉ、「カルテノーの戦い」から5年、本国は俺たちを放置してきたんだぜ？今更、何をやろうっていうのさ……。

？？？？　：　ガイウス閣下のご意向に、疑問でもあるのか？

ミッドランダーの技術兵　：　ネ、ネロ様！？

ネロ　：　お前、どこの生まれなンだ？

ダルマスカ人の技術兵　：　ダルマスカであります！

アラミゴ人の技術兵　：　じ、自分はアラミゴであります……！

ネロ ： コードネームは「ハミングウェイ」。

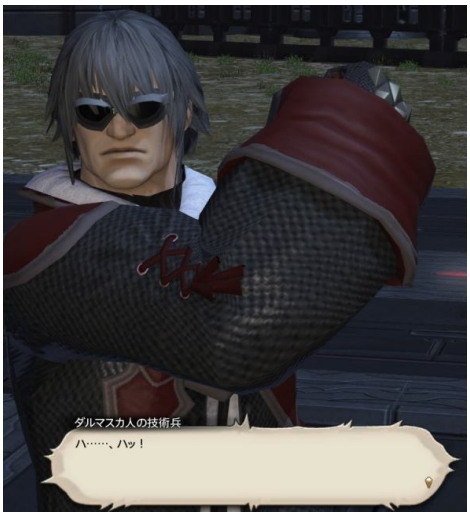
アラミゴ人の技術兵 ： ッ！？

ネロ ： ふぅん、やっぱりなぁ。
ケース58……。パラメキア諜報機関からの報告のとおりだぜ。

アラミゴ人の技術兵 ： ぐはっ……。

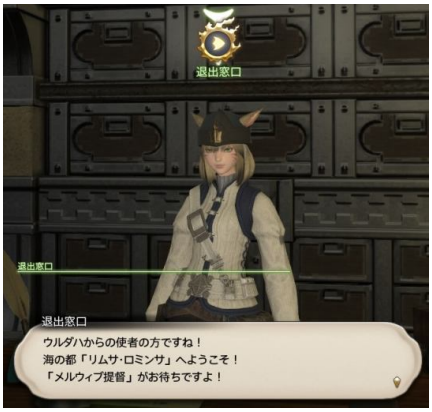
ネロ ： 草だ、片付けとけ。……血もキレイにしとくンだぜ？

ダルマスカ人の技術兵 ： ハ……、ハッ！



ネロ ： オレの魔導技術が上だってこと……。思い知らせてやンよ、ガーロンド。

退出窓口 ： ウルダハからの使者の方ですね！　海の都「リムサ・ロミンサ」へようこそ！　「メルウィブ提督」がお待ちですよ！



黒渦団の儀仗兵 ： ウルダハからの使者様ですね？　お待ちしておりました。メルウィブ提督がお待ちです。
我らが提督も、あなたとの面会を楽しみになさっておいでです。
そちらにございますクロウズリフトより、ブルワークホールへおいでください。
ブルワークホールの「ザントヘール甲軍曹」が、面会場所のアドミラルブリッジ「提督室」まであなたをご案内いたします。

ザントヘール甲軍曹 ： 客人よ。遠路はるばるよくぞ来た。この先が、メルウィブ提督のおわす「提督室」だ。念のため、親書が本物か確認させてもらおう。
うむ。確かにラウバーン殿の紋章が捺されているな。よし！　中へ案内しよう。提督がお待ちだ。

？？？？ ： 入れ。
ウルダハより使者が来るとは聞いていたが、……まさか冒険者とはな。よほど信頼されていると見える。
こちらへ。
ようこそ。「海の都リムサ・ロミンサ」へ。

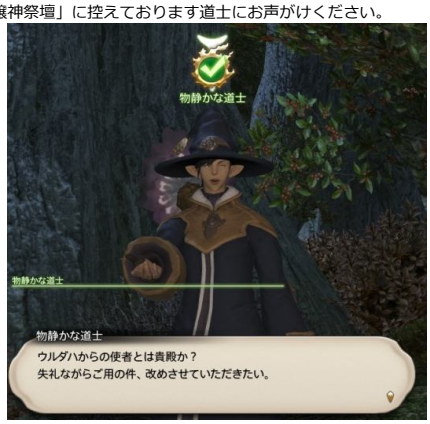
メルウィブ ： この国のグランドカンパニー「黒渦団」の最高司令官、都督のメルウィブ・ブルーフィスウィンだ。
さっそく要件を聞こうか。
……その前に。貴公、名を何という？
ふむ……貴公の名、そして顔……。古い友人に似ていた気がしたのでな。
友人……顔も思い出せぬようでは、私の方が友人として失格だな……。
時間をとらせた。さあ、話を聞こう。
ふむ。「カルテノー戦没者追悼式典」の取り決めについてか。
あれから、5年か。

メルウィブ ： 事の発端は、北方の大国「ガレマール帝国」がこのエオルゼアに侵略戦争を仕掛けてきたことにある。
帝国軍の「メテオ計劃（けいかく）」に対し、エオルゼアの都市国家群は、「グランドカンパニー」を創設して対抗した。
そして5年前……我々、エオルゼア同盟軍は、帝国の野望を阻止すべく、カルテノー平原でガレマール帝国と戦ったのだ。
敵将ネール配下の帝国軍第VII軍団と冒険者を加えたエオルゼア同盟軍との決戦だった。
これが「カルテノーの戦い」と呼ばれる戦（いくさ）だ。
もっとも、その戦局は、到底「戦い」と呼べるものではなかったがね。……君も聞いたことがあるだろう。
カルテノーに現れた漆黒の巨龍……。古の蛮神「バハムート」が、すべてを焼き尽くしたのだ。
結果、帝国軍第VII軍団は壊滅。エオルゼア同盟軍も、多大な被害を受けた。あの惨状は、とてもではないが名状し難い。
……しかし、我々は生き延びた。理由は解らない。
全滅をも覚悟したとき、光に包まれたのだ。神々しい光に……。あれこそが召喚された「十二神」の力だったのか……。
気が付いた時には、そこに蛮神「バハムート」の姿は無く、焼き尽くされたはずの大地も、様変わりをしていた。
「救世詩盟」の賢者ルイゾワさえ存命ならば、その理由もわかっただろうが……。今となっては、真実を知るものは、もう居ない。
しかし、各国には甚大な被害が出た。加えて、再び始まった蛮神騒ぎだ。……我々には、それを探求する余裕は無かった。
各国は、今もさまざまな問題を抱えている……。この状態が長引けば、この先の戦いに、耐えることはできないだろう。
このエオルゼアは、現在もなお、帝国と戦争状態にあるのだからな……。
不可能は人が作り出す……。
この追悼式典を契機に、3国の絆を、再び強固にする必要があるのかもしれないな。
よかろう。君にも、その絆の楔となる役目をお願いしたい。
ラウバーン局長殿へは、私から直接返事をしておこう。
冒険者。君の次の目的地は、グリダニアか？
なら、カヌ・エ・センナ殿に伝えてくれ。メルウィブが「よろしく」言っていたと。
この度の使者の任、ご苦労だった。

搭乗窓口
リ・ノフロ ： こちらはハイウィンド飛空社、グリダニア行き循環飛空便の搭乗受付窓口となっております。
◇◇◇ ◆◆◆様。次のご訪問先は「グリダニア」となっております。さっそく、ご搭乗の手続きをされますか？
かしこまりました。ご準備がおすみになりましたら、お声がけくださいませ。

退出窓口 ： ウルダハからの使者の方ですね！　森の都「グリダニア」へようこそ！　「カヌ・エ様」がお待ちですよ！

双蛇党の儀仗兵　：　お待ちしておりました。ウルダハからの使者様とお見受けいたします。
カヌ・エ・センナ様が「不語仙の座卓」にてお待ちです。
まずは「旧市街」へおいでいただき、「豊穣神祭壇」に控えております道士にお声がけください。



物静かな道士　：　ウルダハからの使者とは貴殿か？　失礼ながらご用の件、改めさせていただきたい。
ふむ……ラウバーン局長の親書に相違ない。それでは、こちらへ参られよ。

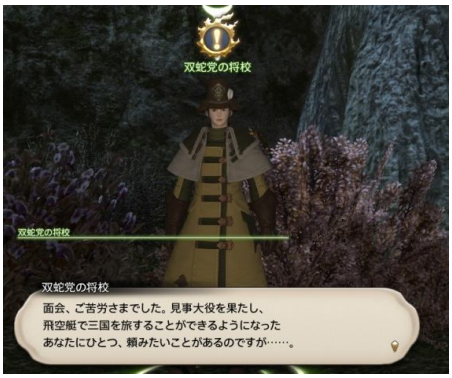
？？？？　：　お待ちしておりました。
あなたがウルダハからの使者ですね。話は聞いています。
こちらへどうぞ。
ようこそ。「森の都グリダニア」へ。
カヌ・エ・センナ　：　この国のグランドカンパニー「双蛇党」の最高司令官、党首のカヌ・エ・センナです。
ラウバーン局長からのご用件を伺いましょう。
冒険者殿……。今一度、お顔を拝見させてください……。
いえ、そんなことはないですね……。知人に似ている気がしたもので……。
お手間を取らせました。お話を伺います。
「カルテノー戦没者追悼式典」の取り決めについてですね。

冒険者殿。このエオルゼアとガレマール帝国の状況をご理解されていますか？
あら、メルウィブ提督にお聞きになったのですね。さすが「鋼鉄の提督」……ぬかりありませんね。
メルウィブ提督に「よろしく」伝えろと言い付かったのですね？　……そうですか、わかりました。
あなたも、そのガレマール帝国について、知っておいたほうがよろしいでしょう。
ガレマール帝国……。この北方の大帝国も、つい50年前までは、北州の辺境国のひとつに過ぎなかったのです。
しかし「魔導技術」によって北州を統一すると、今度はエオルゼアへの侵略戦争を仕掛けてきました。
ガレマール帝国は、現皇帝が一代で築き上げた国。その皇帝も齢80歳を超え、帝国内は今、跡継ぎ問題で揺れています。
天与の資質を持つ主導者です。跡継ぎに失敗すれば、国が滅ぶ可能性すらあります。
先の戦い以降、帝国の動きが鈍いのはそれが理由なのです。
……そのお陰で、エオルゼア諸国は霊災被害からの復興に集中できているのですけどね。
しかし、エオルゼア侵攻軍には、まだ帝国第XIV軍団が残っています……。
軍団長、ガイウス・ヴァン・バエサル。その存在は確かに脅威です。
グリダニアを始めとするエオルゼア諸国は、霊災からの復興で手一杯。帝国との戦いは後回しにしたい……というのが本音です。
それにエオルゼアの脅威は帝国だけではありません。各国ともに、蛮族、蛮神問題を抱えています。
ある意味で、帝国と同じかもしれません……。エオルゼア諸国は目下、管轄の蛮神対策を優先しています。
外へ目を向ける余裕が無いのですから。

カヌ・エ・センナ ： メルウィブ提督は、「よろしく」と言った……。
それは、提督の放っていた草が刈られたと言うこと。帝国に近く動きがあるかもしれない……。
ガレマール帝国……帝国第XIV軍団が動けば、蛮神優先とも言っていられなくなりましょう。
そうですね。ラウバーン局長の言うとおりかもしれません。
3国による追悼式典を催し今一度あの戦いを振り返りましょう。皆で一丸となるためにも。
この件は了解しました。ラウバーン局長へは、私から直接返事をしておきます。
この度の使者の任、ご苦労さまでした。

海都で待つ仕事

双蛇党の将校 ： 面会、ご苦労さまでした。見事大役を果たし、飛空艇で三国を旅することができるようになった
あなたにひとつ、頼みたいことがあるのですが……。
以前、カヌ・エ・センナ様の従者としてリムサ・ロミンサを表敬訪問した折、「バデロン」という方に便宜を図っていただきました。
その彼が、腕の立つ冒険者を探しているらしいのです。
今一度、リムサ・ロミンサに赴いて、溺れた海豚亭のバデロンに会っていただけませんか？



バデロン ： よう、いらっしゃい。空いてる席に座ってくんな！　……っと、客じゃないようだな。
……その姿。おまえさんが、連絡のあった冒険者だな。
俺が「溺れた海豚亭」の店主、バデロンだ。よく来てくれたな。
ちょっと、やっかい事を頼まれてほしくてな。準備ができたら、声をかけてくれよ。